

平成30年度公益財団法人JKA補助事業

教育現場のICT安全安心対策事業 実施報告書

平成31年3月

一般社団法人日本教育情報化振興会



この事業は競輪の補助金を受けて実施したものです。

目次

第1章	1
情報モラル指導充実のための事業	1
1. 事業の目的	2
2. 作業項目とスケジュール／作業体制	3
3. セミナー開催	6
4. 成果発表会	21
5. 今年度作成したコンテンツの概要	40
6. ペーパーサート教材の使い方	42
7. まとめ	45
第2章	46
コミュニケーション力育成のための事業	46
1. 事業の目的	47
2. 作業項目とスケジュール／作業体制	48
3. セミナー開催	50
4. 学習教材開発	61
5. セミナー内容普及促進用パンフレット制作	71
6. 成果発表会	79
6. まとめ	80

第1章

情報モラル指導充実のための事業

1. 事業の目的

インターネットは、社会生活の一部となり、買い物や予約申込み等は電話よりもむしろインターネットを利用して行い、インターネット無しでは考えられないというほど、社会生活に浸透している。また、スマートフォンがフィーチャーフォンを上回って普及する現状では、インターネットへの入り口となる端末は、パソコン、携帯電話からスマートフォン、タブレット端末、ゲーム機、音楽プレーヤーのように多様化すると同時に、いつでも、どこでも、誰でもインターネットに接続して、利用できるものとなっており、児童・生徒は保護者の目の届かないところで利用できるようになった。

このように身近になったインターネットであるが、その利用により手軽に多くの情報を入手したり、見知らぬ人々とコミュニケーションを取ったり、自宅での買い物も手軽にできるなど、様々なことが手軽にかつ安全安心にできるようになると同時に、もう一方では児童・生徒が SNS や無料ゲームなどのコミュニティサイトで犯罪などに巻き込まれる事例も発生している。

日本教育情報化振興会では、児童・生徒の安全安心を願い「教育現場の I C T 安全安心対策事業」を展開しており、この中の一つの事業として「情報モラル指導充実のための事業」を実施している。

これまで、インターネットには危険な面があるということで児童・生徒をそれらから遠ざけるのではなく、子どもたち自身がインターネットを上手に使い、上手に付き合っていけるようにすることが大切であるという考え方に基づいて「ネット社会の歩き方セミナー」を開催してきた。これは、直接、児童・生徒と保護者に対し、ネット社会をどう歩いていけばよいのかを指導、啓発するセミナーであったが、学習指導要領の総則に「各教科等の指導にあたっては…情報モラルを身につけ…」と記載されたことを契機に、全ての教員が、全ての教科で情報モラル指導をできるように、その指導法、教材や現在児童・生徒の抱えている問題点など最新の情報を提供することを目的として、平成23年度から公益財団法人 J K A の補助をいただき、情報モラル指導の講師を育成すべく「情報モラル指導充実のための事業」を行い、教職員や教育委員会の指導主事などを対象としたセミナーを開催して、今年度はその7年目にあたる。正しい指導方法を広く展開することを重要な観点として、セミナー参加者がその地域の教育委員会や学校に戻り、そこで講師として指導ができるための教材と指導方法を伝える資料を用意し、裾野を広げるための活動としている。

なお、これらは公益財団法人 J K A の競輪の補助金を受け実施した。

2. 作業項目とスケジュール／作業体制

(1) 作業項目とスケジュール

作業項目とスケジュールは下記の通りである

図表1 作業項目とスケジュール

作業項目	平成30年										平成31年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
委員会開催	▼① 16				▼②▼③ 6 27			▼④▼⑤ 5 30			▼⑥ 21		
開催地公募	---▼												
テキスト改訂	▲-----▼												
セミナー開催			▲-----▼										
学習教材開発		▲-----▼											
成果発表会												▼ 8	

(2) 委員会の設置

本事業では有識者で構成する「ネット社会の歩き方情報モラルセミナー検討委員会」を組織して作業に取り組んだ。全6回の検討委員会を開催し、作業スケジュールの策定、セミナー開催地の公募と採択、セミナー用テキストの改訂、セミナー開催時の講師、学習教材の企画と開発、成果発表会での報告等、本事業の全体を管理した。

また、セミナー用テキストの改訂の実作業、セミナー開催地の教育委員会との連絡、セミナー開催準備、学習教材開発の実作業等は事務局が担当した。

図表2 委員一覧

所属	役職及び氏名
鳴門教育大学大学院	准教授 藤村 裕一
岐阜聖徳学園大学	教授 石原 一彦
聖心女子大学	非常勤講師 榎本 竜二
新見公立短期大学	教授 梶本 佳照
エンゼル幼稚園	子育て支援センター長 勝見 慶子
東京都台東区立 東育英小学校	校長 木村 和夫
東京都台東区立 教育支援館	研修専門員 佐久間茂和
千葉学芸高等学校	校長 高橋 邦夫
柏市教育委員会	教育専門アドバイザー 西田 光昭
京都市立向島南小学校	教諭 堀川 紘子
千葉大学教育学部 附属中学校	副校長 三宅 健次

図表3 事務局等の体制

所属	役職及び氏名	役割
一般社団法人 日本教育情報化振興会	専務理事 森本 泰弘	責任者
同上	調査・研究開発部 部長 吉田 真和	総括・研修対応
同上	総務部 総務担当部長 赤松伊佐代	JKA 対応・連絡窓口

(3) 委員会の開催

委員会は、適宜日程を調整し開催した。今年度は、たくさんの教材開発を行なったため、確認事項が多く発生し、5回開催予定だったが、年間6回の委員会を開催した。

それぞれの開催日、議題は下記の通りである。

図表4 委員会開催実績

開催回数	開催日	議題
第1回	30. 4. 16	<ul style="list-style-type: none"> ・年度スケジュールの確認 ・セミナー開催地採択と担当委員の選定 ・新学習指導要領に対応した共通教材の改訂の検討 ・新規教材について <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材 (HTML5 化・新規コンテンツ 10 本) - ネットショッピング・SNS の体験サイトの検討 - ペープサート開発 - 保護者向け「ホゴ・コミ」教材の検討
第2回	30. 8. 6	<ul style="list-style-type: none"> ・新規教材について <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材 (HTML5 化・新規コンテンツ 10 本) - ネットショッピング・SNS の体験サイトの検討 - ペープサート開発 - 保護者向け「ホゴ・コミ」教材の検討
第3回	30. 8. 27	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度に開発するコンテンツについて <ul style="list-style-type: none"> - 学校現場に必要な教材とは - 新たな情報モラルの事件や問題等の事例への対応 ・新規開発するコンテンツについて <ul style="list-style-type: none"> - 修正の確認及び内容の確定 - 学習教材のシナリオ検討 等 - ペープサート教材の大学生での試用結果について
第4回	30. 11. 6	<ul style="list-style-type: none"> ・新規揮発するコンテンツについて <ul style="list-style-type: none"> - 修正の確認及び内容の確定 - 学習教材のセリフ検討 等
第5回	30. 11. 30	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の情報化推進フォーラムのパネル討論について ・新規揮発するコンテンツについて <ul style="list-style-type: none"> - 修正の確認及び内容の確定 - 学習教材のセリフ検討 等
第6回	31. 2. 21	<ul style="list-style-type: none"> ・開発教材の最終確認 <ul style="list-style-type: none"> - アフレコに向けた修正の確認及び内容の確定 ・次年度セミナー用テキスト改訂カ所の検討 <ul style="list-style-type: none"> - 確認・レビュー ・教育の情報化推進フォーラムのパネル討論について <ul style="list-style-type: none"> - 最終確認

(4) 開催地の公募

開催地の公募は、教育委員会の意向もあり¹前年度の 1 月より行った。日本教育情報化振興会 の Web ページで公開すると共に、全国の都道府県と中核市以上の教育委員会約 100カ所へ下記内容の案内状を送付した。

1) テーマ

「情報モラル教育指導のポイント」

2) 開催時期と時間

平成30年 6月から平成30年12月の間の午後、最低 2時間30分

3) 対象受講者と会場あたりの定員

指導主事、教職員 約50名程度 (目安)

4) 開催会場

地方自治体等の無償で利用できる会場 かつ 受講者がパソコンを使用可能な会場

5) セミナーの具体的な内容

講師育成セミナー検討委員会と貴教育委員会の協議で決定する

6) セミナーのプログラム (例)

- ・データから見るネット社会の現状
- ・情報モラルの指導 (理論編および実践編)
- ・「ネット社会の歩き方」の活用
- ・その他の教材の紹介
- ・保護者との関わり
- ・問題発生時の対応
- ・ワークショップ

(5) セミナー用テキストの改訂

セミナー用テキストの中には、携帯電話・スマートフォンの保有率やネット上のトラブル発生状況等、年々変化する数値データがあるため、中央省庁が発表している最新データに更新した。

さらに、2020年から実施される新学習指導要領解説編における情報モラルも取り扱いについても、詳しい解説を追加した。

また、スマートフォンを保有する比率が増え、アプリの進展による新しい SNS のサービスや問題にも対応する必要があった。このように世の中の動きを反映したセミナーとするために、委員の意見に基づき (過去一年間程度のネット上のトラブルやリスクの中から喫緊の課題と考えられる事案を取り込む) 資料の差し替えを行った。

¹通常、地方自治体の教育委員会は教員研修計画を前年度の2月頃に策定している。この計画に組み込むために、本事業で実施するセミナーの採択に関しても早期の決定を求められている。

3. セミナー開催

(1) セミナー開催

本事業で提供するセミナーは、全国の教育委員会が主催している教員向け研修会の一プログラムとして実施される場合が多い。この関係で、教員が比較的時間を確保し易い、夏休み期間に開催が集中している。教育委員会の指定が無い場合は以下のプログラムでセミナーを実施することとした。

図表5 セミナー開催実績

開催回数	開催日	開催場所	講師	人数
第1回	30. 6. 5	熊本市教育センター	西田委員	43名
第2回	30. 6. 12	東近江市教育委員会	西田委員	50名
第3回	30. 6. 22	堺市教育センター	石原委員	12名
第4回	30. 6. 29	和歌山県教育センター 学びの丘	梶本委員	29名
第5回	30. 7. 23	埼玉県消費生活支援センター	三宅委員	33名
第6回	30. 7. 25	鹿児島市学習情報センター	藤村委員長	12名
第7回	30. 7. 26	市川市教育センター	木村委員	55名
第8回	30. 8. 2	関西教育 ICT 展	藤村委員長 他2名	128名
第9回	30. 8. 23	佐賀県教育庁（午前の部 小中学校）	佐久間委員	29名
第10回	30. 8. 23	佐賀県教育庁（午後の部 高等学校）	藤村委員長	43名
第11回	30. 10. 29	足立区学校教育部教育指導課	榎本委員	97名
第12回	30. 11. 19	枚方市教育委員会	榎本委員	74名
第13回	30. 12. 22	足立区立花畑小学校	榎本委員	19名
第14回	31. 3. 9	教育の情報化推進フォーラム （オリンピックセンター）	藤村委員長 他5名	230名
合計				854名

図表6 熊本市教育センターでのセミナー風景（平成30年6月5日）



図表7 東近江市教育委員会でのセミナー風景（平成30年6月12日）



図表8 埼玉県消費生活支援センターでのセミナー風景（平成29年7月23日）



図表9 足立区学校教育支援課でのセミナー風景（平成30年10月29日）



図表10 枚方市教育委員会でのセミナー風景（平成30年11月19日）



(2) セミナー開催団体の所感

セミナー開催団体の所感を以下に抜粋する。

- 1) ネット社会の現状、SNSの危険性やトラブルが、自分たちの想像以上であることを知った。そのうえで、どのように情報モラルを指導していくかを、ナビカード教材を用いて熱心に協議することができた。
- 2) ネットの世界がより近くにあることを感じました。自分自身や自分が関わっている子どもたちが、正しい知識をもち、危険から回避していく必要があると思います。本日聞いたことはぜひ、機会を見て子どもたちにも伝えたいと思います。
- 3) 情報モラルに「関する理解が深まりました。役に立つ内容が多く有意義でした。ありがとうございました。
- 4) 情報モラル教育は、これからのネット社会を「明るく良い社会」にしていくために、とても必要なものだった。
- 5) 大変参考になった。他の教員も参加できるように毎年拡大してセミナーを開催してほしいと思う。

図表 1 1 セミナー開催団体の所感

開催場所	講師	所感
熊本市教育センター	西田 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・何を大切死して教えていくかについて、手掛かりが得られた。 ・いろいろな角度から、情報モラルについて学ぶことができました。 ・子どもにどのようにしどろしていか、今後の引き続き、研修から実践に取り組んでいきたい。 ・めまぐるしく変わる情報社会で、必ず伝えなければならないことを、改めて確認できました。ありがとうございました。 ・教員の知識が同じレベルで話を進めなければ、難しいと感じる部分があると思いました。 ・「ネット社会の歩き方」のサイトを生徒指導で活用したい。 ・指導用の教材は多かったが、古いものも多かった。どんどん、更新されるとありがたい。 ・これからの教育に活かしていきたいと思います。 ・校内研修において、セミナー開催を予定している。 ・保護者への啓発に利用したいと思います。 ・夏休みの校内研修の中で20～30分を利用し、今回の内容を講演したい。 ・研修会を実施するのは難しいが、ナビカード教材の紹介をしたいと思う。 ・最新の情報モラルの動向など、大変有意義でした。ワークショップではいろいろな先生方の意見・アイデアが聞けて勉強になりました。ぜひ実践してみたいです。 ・講師のお話がとても専門的なものが多く勉強になった。
東近江市教育委員会	西田 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・内容については、良くわかりましたが、学校に持ち帰って授業となると難しいなあと思います。 ・具体的でわかりやすかった。

		<ul style="list-style-type: none"> ・大変良かったです。現状に合わせて対応することが大切だと感じました。 ・ぜひ、今年度保護者を対象にした研修会をP T Aで計画したい。 ・学校全体で、何をどのように取り組むか、しっかり考えていきたいと思います。豊富な情・ネット利用のモラルに関する教材を仕入れることができたので、今後に生かしていきたい。 ・情報モラルの授業をする上で、次の点に注意していきたい <ul style="list-style-type: none"> ●情報を活用する各場面で活用する ●情報技術の特性について理解させる ・今後、将来の新たなサービスや危険にも適切に対応できるような力を身につけさせたい。 ・「ネット社会の歩き方」の教材を利用した授業を学校課題に合わせて実施したい。 ・中学校区での話し合いにより、校区の課題を整理することができた。個人情報やルール作りについて早急に取組をしたい。報をありがとうございました。
堺市教育委員会	石原 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なコンテンツや情報を知ることができ、大変有意義な時間になりました。「ネット社会の歩き方」をぜひ使いたいです。 ・教えていただいた「ネット社会の歩き方」を夏期研修でやってみたいと思います。 ・「SNS との付き合い方について」「ネットいじめについて」研修会を実施したいと思います。 ・本校の生徒夏季研修で実践する予定である。 ・具体的に活用させていただける貴重な資料を大変ご提供いただき、ありがた存じます。 ・まずは、教員が学び、生徒へ、また保護者に指導できるように努力いたします。 ・具体的な事例もあり、とてもわかりやすかったです。 ・小学校の生徒主事です。昔に比べ、ますますトラブルが目に見えないが増えていきます。充分気をつけていきたいです。 ・授業等で活用できるように努めたい。 ・教員の方々に、周知できるようにしたい。 ・教材に動画等があるので、子どもたちも興味を持ちやすいと思った。 ・校内でのネットいじめ対策研修会や道德などの取組への共有を図りたい。 ・「ネットいじめ防止プログラム」実施事業における、児童生徒に対する「ネットいじめ防止」授業の実施を予定しています。また、「堺市立学校 スマホ・ネット ルール5『まもるんやさかい』」の取組を推進するための参考とさせていただきます。

和歌山県教育センター	梶本 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、学校に戻って先生方に伝達したいです。知らなかった情報や、最近の SNS について、教師が知らなくてはいけないと思います。校内研修を提案したいです。 ・具体的な教材を教えていただいたことで授業のイメージを持つことができました。 ・情報モラル教育というと、自分にとって少し敷居が高いように感じていたが、「ネット社会の歩き方」のアニメーション及び動画教材等、「使える教材」を教えていただき、自分でもできそうな気持ちになりました。学校現場でも「このような教材がある」と伝えていけたらと思います。 ・紹介してくれた教材が指導案、ワークシートまでついており、素晴らしい。 ・授業案や動画があり、授業作りに時間がかからずにできる点が便利だと感じました。自分なりにチャレンジして授業にしていきたいと思います。 ・「ネット社会の歩き方」で紹介された教材は、生徒に情報モラルについて考えさせる良い教材だと思いました。 ・夏休み明けに、情報モラル教育を実践していくために、共通理解を取って取り組みたい。 ・教員が現在の子供達達のネット利用の現状を理解する研修会を企画したいです。 ・情報モラルについて、いざ自分が授業をするとしたらと想定して、いろいろ調べ授業案を考える機会があつてよかったです。
埼玉県消費生活支援センター	三宅 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・時代はどんどん変化しており、正直ついていけない部分が多いです。ほんの少し今日のセミナーで学ぶことができました。今後の授業やその他の指導に役立てて行きたいと思います。 ・実例を多く取り入れられていただいたので、大いに役立ちました。被害と加害への対応の難しさもよくわかりました。 ・ナビカード教材を学校で使いたい。 ・すぐに実践ができそうな内容だった。
鹿児島市学習情報センター	藤村 委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・暗号のしかたが、大変参考になりました。同僚達にすぐにでもおしえたいものばかりです。 ・参考例がたくさんあつてわかりやすかったです。 ・ICT 支援員として働いていますが、情報モラルや情報セキュリティについて、私自身勉強だったと感じることが多いので、参加させて頂きました。これまで知らなかったことをたくさん知ることができ、本当に勉強になりました。ありがとうございました。 ・絵、イラスト付き、字が大きく、見出しでパ

		<p>ッとわかることが非常に良い。コピーして利用可能なのがありがたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、教員へ、そしてPTA/保護者へ伝えて、子どもたちが安全に使えるようにしたい。 ・今回参加できて、ラッキーだった。 ・Web上の指導資料等についても、ぜひ授業等で扱ってみたいと思います。 ・現代のネット社会のなかで、私のような大人や教職員がすべきことを詳しくすることができ、今回のような研修会に参加できてよかったです。 ・3時間半の講義もあっという間に感じた。とても充実した時間でした。暗号化ソフト、「ネット社会の歩き方」など、今後の活動に取り入れていきたいと思います。
市川市教育委員会	木村 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案を作成し、9月以降にすぐ実践できるのも良かったです。 ・近隣の学校の問題の共有ができて良かったです。じっさいの授業で教えることができたのでやってみたいと思います。 ・コンテンツや資料など役立つ情報を知ることができて、勉強になった。 ・若手の研修(不祥事防止)を校内でやったとき、情報モラルが話題にあがりましたが、授業で使うだけでなく、大人の研修でも足用できそうな動画があって良かったです。 ・他校の先生方と情報の交換ができて良かったです。 ・サイト内には、指導案やワークシートなどが合ったので、もう1度しっかり見て上手に活用したいです。 ・児童目線での内容だったので、授業に活用したいと思いました。 ・普段よく考えていなかったもので、この機会にネットモラルについて考えることができて良かったです。
佐賀県教育委員会 (AM:小中学校、PM:高等学校)	藤村 委員長 佐久間 委員	<p>佐久間先生、藤村先生の講演では、現行学習指導要領及び新学習指導要領を踏まえ、学校教育全体で情報モラルの指導を行なっていること、行っていくことの重要性を再認識するとともに、情報モラルに関する様々な課題を国のデータや実際に起こった事例を基に示していただき、児童生徒を取り巻くネット社会の現状や問題点について確認することができた。</p> <p>また、情報モラルを指導する際に有効な教材についても紹介いただき、その教材お使いやすさを実感することができた。</p> <p>受講者からは、先生の話聞いて「情報モラルに関する実際の指導場面などの画像があってわかりやすかった」や「ネット社会の歩</p>

		<p>き方は有効活用できそう」などの感想が多く聞かれた。</p> <p>また、ワークショップでは、研修講師を育成するという趣旨に基づき、情報モラルに関する授業又は研修会のプランを立てるという課題が出され、参加者は、自己が所属する学校の児童生徒の実態や研修会の実状などをイメージしながら意欲的に取り組んでいた。発表の場では、それぞれのグループで確認した実態や実状をもとに、グループで練った授業や研修会のプラン内容が発表された。さらに実際の授業をイメージした模擬授業や研修会の必要性をどのように訴えるかをイメージした寸劇など、実際に取り組む際の課題への対応も発表され、今後、各学校において授業や研修回が実践化される期待が高まるものであった。</p> <p>ネット社会の闇の部分に目が行きがちだが、光の部分や肯定的に指導していくことの必要性も併せて講義していただいたことで、「情報モラルは生徒指導」といく偏った考え方から、学校の教育活動全体で指導していくことが、今から更に必要であり、学校全体で行なっていく指導であるという考え方を、受講者が意識できたようである。</p> <p>また、児童生徒を取り巻くネット社会の現状と課題について、事例を紹介しながらお話いただいたことで、指導状のリユ移転について認識を深めることができ、情報モラル教育の実践意欲の喚起につながった。</p> <p>加えて、「ネット社会の歩き方」を含め、インターネット上には授業や研修にすぐ活用できる教材・資料が豊富に提供されていることを実感でき、各種研修会や授業において、今後の活用につながるものと期待される。</p>
足立区教育委員会	榎本 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的例がたくさんあってわかりやすかった。 ・情報教科を有効活用したい。 ・実際に起こっている事例がたくさん扱われているため、直接的な理解につながると感じました。 ・現代の様々な問題とリンクされており、問題についての危機感が高まった。 ・他の先生との情報交換がとても参考になりました。 ・資料がダウンロード可というのがうれしい、学校でも使える。 ・保護者にもぜひ聞かせたい内容であった。 ・生々しい事例にふれた方が良いと思う。意外と教員も知らない。 ・お話の内容も専門的でわかりやすく、すぐ実践したくなるものであった。

		<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルに関して指導していく際に「便利」な教材をすることができて良かった。たくさんさんのトラブルが起こりそうだということがわかった。 ・児童の実態に合ったナビカード教材はすぐに使えるもので良かったです。その他のものは、タブレット導入後に活用したいと思います。 ・まずは、校内研修の一環として、本日紹介してもらった教材を共有し、私自身が学んだことを伝えたいと思います。 ・高学年が容易に You Tube にアップロードしてしまうことが多いので本当の怖さを伝えたいです。 ・ウィルスの仕組みがわかった。
枚方市教育委員会	榎本 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルの研修方法や授業に活かすカードの使い方などわかりやすく説明をしていただき、研修受講生は「ネット社会の歩き方」について、学校で他の先生方や子どもたちへの広め方などたくさんさんの知識を得られた。 ・教職員全員に本日の研修の内容を伝えることによって、子どもたちの生活の安心・安全につながるという意識が強く感じられた。 ・改めてネット社会での危険性について考えることができた。今回の教材を活用して、個人情報取り扱いなど正しい情報を子どもたちに伝え、正しい使い方を教えたいと思いました。 ・受講した小中学校の先生は熱心にお話を聴かれた。今後は、それぞれの学校で情報モラル教育の取り組みを先生方や児童生徒に広めていただく。 ・次年度も情報教育研修を行い、モラルなど情報教育を支援する予定である。
足立区立花畑小学校	榎本 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット社会の現状、SNSの危険性やトラブルが、自分たちの想像以上であることを知った。そのうえで、どのように情報モラルを指導していくかを、ナビカード教材を用いて熱心に協議することができた。 ・今回学んだことを、積極的に児童、保護者に伝えていく。児童については朝の会や学級会活動、道徳の時間に学び機会を設定する。また、保護者に対しては、保護者会や学年だより、PTA運営委員会を機会とする。 ・教師自身も情報モラルを高くもち、SNS等を上手に活用できるようにしていきたい。 ・個人情報の流失の恐ろしさを改めてかんいることができた。 ・新学習指導要領と情報モラルとの関わりが明確になった。どうして子どもにみにつけさせねばならないのか理解できた。グループ討議で実態を考えることができた。

(3) 受講者へのアンケート

セミナー内容を改善するために受講者へ下記アンケートを実施した。

図表 1 2 受講者向けアンケートシート (おもて)

★マークのしかた



「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナー アンケート

「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナーを受講いただきありがとうございます。ご意見・ご感想を聞かせてください。

選択式の回答は、該当箇所のマーク○を塗りつぶしてご回答ください。
○: 空白マーク ●: 正しいぬりつぶし /: 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。
この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

- (1) 【択一選択設問】 あなたの性別は？
 男 女
- (2) 【択一選択設問】 あなたの年齢は？
 20～29歳 30～39歳 40～49歳 50～59歳 60～69歳 70歳以上
- (3) 【単一選択設問】 あなたの所属についてお伺いします。以下の項目から、あなたの所属に合うものを1つ選んでください。(1つにマーク)
 小学校 中学校 高等学校 特別支援学校 それ以外の学校
 行政 その他
- (4) 【単一選択設問】 あなたの職名についてお伺いします。以下の項目から、あなたの職名に合うものを1つ選んでください。(1つにマーク)
 校長 副校長 教頭 教諭 指導主事 その他
- (5) 【複数選択設問】 あなたの分掌分野についてお伺いします。あなたの分掌分野に合うものを選んでください。(複数回答可)
 教科指導 生徒指導 教務 情報教育 研修 その他
- (6) 【複数選択設問】 あなたの担当教科についてお伺いします。あなたの担当教科に合うものを選んでください。(複数回答可)
 小学校 情報 技術家庭 国語 社会 数学
 理科 英語 音楽 美術 書道 保健体育
 その他
- (7) 【単一選択設問】 これまで受講された研修についてお伺いします。過去に、今回のような情報モラル指導者を養成する研修会に参加したことがありますか。(1つにマーク)
 ある ない
- (8) 【単一選択設問】 これまでの情報モラル研修への関わり方についてお伺いします。過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがありますか。(1つにマーク)
 ある ない

→次ページに続く

1 / 2
情報モラルセンター
アンケートシート
(2017年度)

図表 1 3 受講者向けアンケートシート (うら)

★マークのしかた



(9) 【複数選択設問】受講動機についてお伺いします。本セミナーへの受講動機として該当する項目の番号を選んで下さい。(複数回答可)

情報教育の担当をしているため 情報モラル指導のレベルアップのため

上司から受講の指示、勧めがあったため その他

(10) 【単一選択設問】セミナーの内容についてお伺いします。今後、みなさんが情報モラル研修会を実施する際に今回のセミナーが参考になると思うか、【参考度】をお答えください。(1つにマーク)

参考にならない あまり参考にならない やや参考になる 大変参考になる

(11) 【自由記述設問】今回のセミナー内容に関してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください

(12) 【単一選択設問】セミナーの教材についてお伺いします。今後、みなさんが情報モラル研修会を実施する際に今回紹介した教材が活用できると思うか【活用度】をお答えください。(1つにマーク)

活用できない あまり活用できない やや活用できる 大変活用できる

(13) 【自由記述設問】今回ご紹介した教材に関してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください

(14) 【単一選択設問】今回のセミナーで得られた情報の展開についてお伺いします。本セミナー以降に、校内などでセミナー、研修会など開催する予定はありますか。あなたの考えに合うものを1つ選んでください。(1つにマーク)

セミナー、研修会などの開催する 現時点で予定はないが、可能な規模・内容で計画したい

セミナー、研修会など開催の予定はない その他

(15) 【自由記述設問】開催を計画、予定されるセミナーや研修会はどのようなものでしょうか、ご記入ください

(16) 【自由記述設問】最後に、全体を通してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください

アンケートへのご協力ありがとうございました。

2 / 2
情報モラル
セミナーアンケート
(2014年度)

1) 受講者プロフィール

セミナー受講者のプロフィールを図表 14 から 18 にまとめた。(高校生は含まず)

① 性別年代別受講者数

どの年代においても、男性受講者の方が多い。年代別では 30 歳台次いで 40 歳台となっている。

図表 1 4 性別年代別受講者数 (単一選択)

	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	無回答	合計
男性	64	77	64	49	12	0	0	266
	24%	29%	24%	18%	5%	0%	0%	
女性	31	37	30	23	0	0	0	121
	25%	31%	25%	19%	0%	0%	0%	
無回答	0	1	0	0	0	0	3	4
合計	95	115	94	72	12	0	3	391
	24%	29%	24%	18%	3%	0%	1%	100%

② 学校種別受講者数

全国の学校種別の教員の人数が、小学校：中学校：高等学校＝1.0：1.6：1.1であることを鑑みると、中学校・高等学校での教員の比率が大きくなってきている。

図表 1 5 学校種別受講者数 (単一選択)

学校					行政	その他	無回答	合計
小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他				
194	90	72	17	8	6	1	3	391
49%	23%	18%	4%	2%	1%	0%	0%	100%

③ 役職別受講者数

一部の熱心な校長先生や教頭先生が受講されているが、教諭が圧倒的に多い。

図表 1 6 役職別受講者数 (単一選択)

校長	副校長	教頭	教諭	指導主事	その他	無回答	合計
6	11	2	336	2	33	1	391
1%	2%	0%	85%	0%	9%	0%	100%

④ 分掌分野別受講者数

勤務校で情報教育を担当されている先生が多いが、次いで「生徒指導」担当の先生が多い。

図表 1 7 分掌分野別受講者数 (複数選択)

教科指導	生徒指導	教務	情報教育	研修	その他	合計
119	98	80	156	30	93	483
30%	25%	20%	39%	7%	23%	

⑤ 担当教科別受講者数

担当教科別に特に偏りは無い。

図表 1 8 担当教科別受講者数 (複数選択)

小学校	情報	技家	国語	社会	数学	理科
177	4	29	15	18	30	37
英語	音楽	美術	書道	保健体育	その他	合計
19	3	3	2	18	61	416

2) 受講者のこれまでの情報モラル研修との関わり

セミナー受講者のこれまでの情報モラル研修との関わりを図表 19 から 21 にまとめた。

① 過去の受講経験

過去に情報モラル研修を受講したことの無い先生の方が多かった。

図表 19 過去に、情報モラル指導者を養成する研修会に参加したことがあるか (単一選択)

ある	ない	合計
177	211	398
45%	33%	

② 過去の講師経験

過去に情報モラル研修を企画したことが無い先生の方が多かった。

図表 20 過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがあるか (単一選択)

ある	ない	合計
41	346	387
10%	88%	

③ 本セミナーの受講動機

「上司からの指示」の割合は少なくなっているが、積極的に受講されている先生は少ないと思われる。

図表 21 本セミナーの受講動機 (単一選択)

1 : 情報教育の担当をしているため	147	37%
2 : 情報モラル指導のレベルアップのため	135	34%
3 : 上司からの指示があったため	126	32%
4 : その他	51	13%
回答数	459	

3) 本セミナーに対する評価

セミナー受講者のセミナー評価を図表 22 から 23 にまとめた。

① 本セミナーは、今後の情報モラル研修会実施上の参考になるか。

98.7% の受講者が有用と考えている。

図表 2 2 本セミナーの有用度 (単一選択)

参考にならない <<<<<< 参考になる			
1	2	3	4
7	3	90	274
1%	0%	25%	70%
		3or4 の回答比率	
		95%	

② 本セミナーで利用した教材は、今後の情報モラル研修会に活用できるか。

98.7% の受講者が教材を活用できると考えている。

図表 2 3 本セミナー教材の有用度 (単一選択)

活用できない <<<<<< 活用できる			
1	2	3	4
2	8	107	253
0%	2%	28%	65%
		3or4 の回答比率	
		93%	

4) 今後のセミナー開催予定

セミナーの開催を具体的に考えている先生が少ないことは今後の課題と考えている。

図表 2 4 今後のセミナー開催予定 (単一選択)

1. セミナー、研修会などの開催する	27	6%
2. 現時点で予定はないが、可能な規模・内容で計画したい	209	53%
3. セミナー、研修会など開催の予定はない	117	30%
4. その他	17	4%
回答数	370	

<発表資料>

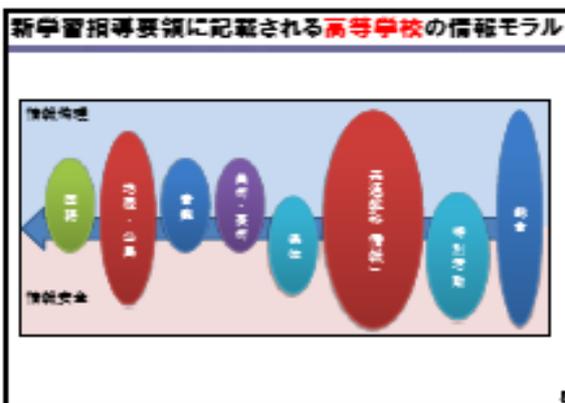
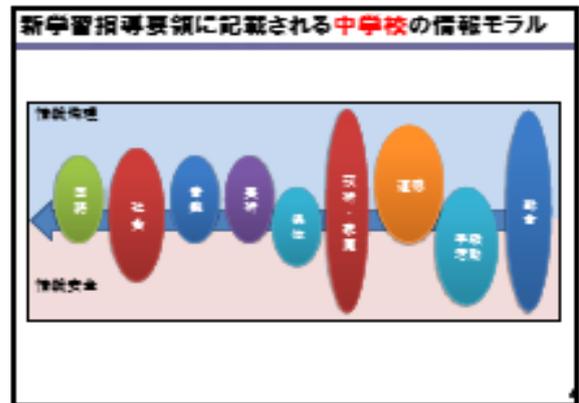
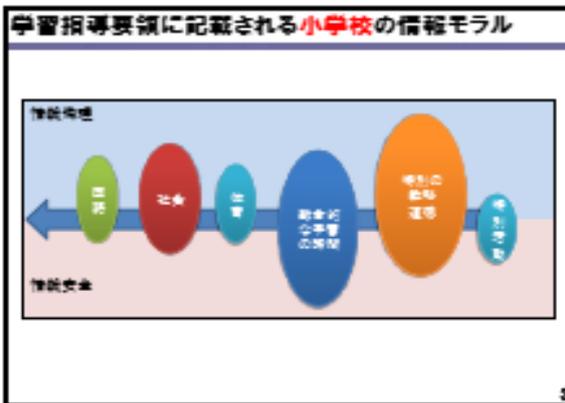
①藤村委員長

平成30年度
「ネット社会の歩き方」
情報モラルセミナー

本事業は関係の賛助会を受けて実施しております。

情報モラル教育の現状と新学習指導要領に対応した改善策

年に一度、外部講師による講師
をするのみ → 新学習指導要領に基づく
全教員による、各学年での指導
多様な課題への対応不能、実態への十分な理解の乏しい状況



情報モラル教育の現状と新学習指導要領に対応した改善策

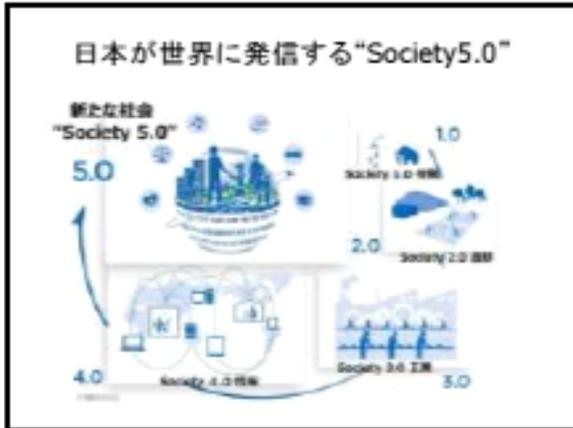
年に一度、外部講師による講師
をするのみ → 新学習指導要領に基づく
全教員による、各学年での指導
多様な課題への対応不能、実態への十分な理解の乏しい状況

教師主導の伝え込み型授業 → 経験者・ベテランによる
主体的・対話的で深い学び

小学校高学年以上のみ → 活動方針から保護者まで対象
(指導ロジックの違いにも対応)

「教えない」と習すのみ → 積極的に情報・メディアを上手に
活用するネット社会の超い手
習うだけでは児童実態が理解・メディアから遠ざかる

単発型実施のみ → 横断的・継続的な実施の推進、
適切な事例を取り入れる
教員間で連携の乏しい状況



文部科学省「Society 5.0に向けた学校ver.3.0」

文部科学省「Society 5.0に向けた学校ver.3.0」

目的・目標
Society 5.0 実現に向けた学校ver.3.0の目的・目標

実施方針
Society 5.0 実現に向けた学校ver.3.0の実施方針

実施内容
Society 5.0 実現に向けた学校ver.3.0の実施内容

主体的・対話的で深い学びとしての生徒会による主体的ルール作り

生徒・保護者・教員の三者協議で(青森県立三沢高等学校)

生徒・保護者・教員の三者で協議

生徒がアンケートをとり、それに基づき授業改善、施設、課外

生徒が主体的に呼びかけ

携帯の活用

携帯の活用

生徒が 授業と学習も得意し、みんなが話し合おうと努力かけ

5月に1回以上の進捗が多発し、主体的学習を呼びかけ

MOSS SUMMIT

Viva Vivo

主体的・対話的で深い学びは1時間だけでなく、単元レベルでも

授業のタイプごとに、獲得する学力が違う。

	教習学的授業類型	獲得するもの	2類型
筋を通る授業	1) 教習学的授業-英語・音楽型授業	基礎的・基本的な知識-技能	習得型
	2) 教習学的授業-課題解決学習(学習課題-進路方向とも教習的) Project-based Learning (PBL)型	知識-技能の基本的な理解(モデル)	応用型
自ら学ぶ授業	3) 授業実践としての課題解決学習(学習課題は教習的) (進路方向は授業実践的)	基礎的学力(読解力・思考力・判断力・表現力・協働性 等)	本質的学力(読解力・思考力・判断力・表現力・協働性 等)の向上(発展)
	4) 課題解決学習(学習課題・進路方向とも授業実践的) Problem Solving Learning	基礎的見識力 課題解決力	探究型(発展型)

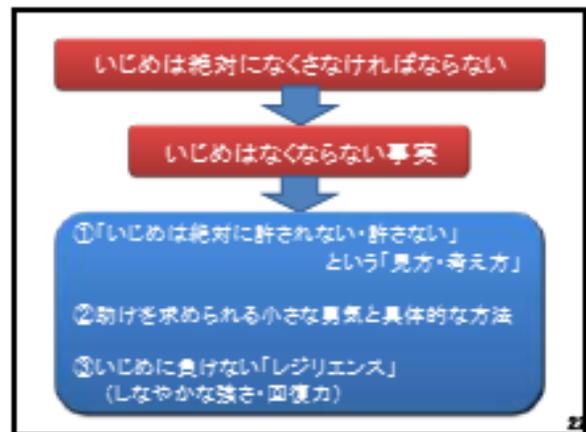
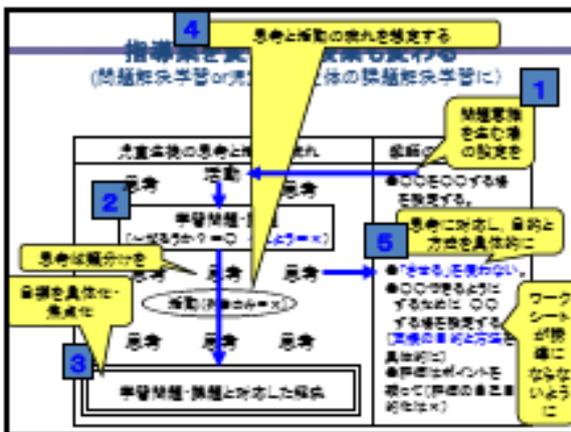
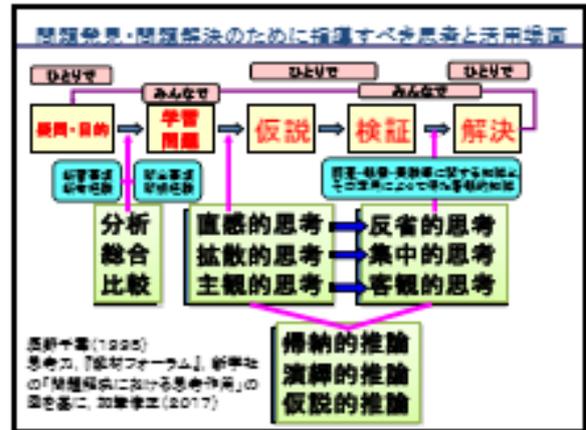
Y-COの学校改善プロジェクト 藤村(2014) 42

高大初等部は問題解決学習を前提としていない

	教習学的授業類型	獲得するもの	2類型
筋を通る授業	1) 教習学的授業-英語・音楽型授業	基礎的・基本的な知識-技能	習得型
	2) 教習学的授業-課題解決学習(学習課題-進路方向とも教習的)	知識-技能の基本的な理解(モデル)	応用型
自ら学ぶ授業	3) 授業実践としての課題解決学習(学習課題は教習的) (進路方向は授業実践的)	基礎的学力(読解力・思考力・判断力・表現力・協働性 等)	本質的学力(読解力・思考力・判断力・表現力・協働性 等)の向上(発展)
	4) 課題解決学習(学習課題・進路方向とも授業実践的) Problem Solving Learning	基礎的見識力 課題解決力	探究型(発展型)

主体的・対話的で深い学び

Y-COの学校改善プロジェクト 藤村(2014) 44



どんなに変化の激しい社会でも
自ら問題を発見し
人間らしさを生かして
よりよく問題を解決する子ども

メディアと上手に付き合い
メディアを効果的に活用にして
望ましいネット社会の担い手になる子ども

②梶本委員

情報モラル教育の動向

中央教育審議会審中や学習指導要領等
から読み取る

公立大学法人 新見公立大学
新見公立短期大学・教授
梶本 信昭

情報活用能力として
情報モラルが位置付けられる

- ・〇〇してはいけないという禁止教育からの脱却

新学習指導要領（小学校・中学校：平成29年5月告示）

- ・情報活用能力を、言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけ
- ・総則において、児童生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）等の学習の基盤となる資質・能力を育成するため、各教科等の特性を生かし、教科専横断的な視点から教育課程の編成を図るものとするを明記。

※高等学校：平成30年3月告示

（情報活用能力（情報技術を手段として活用する力を含む）の育成）中央教育審議会審中（H28/12）

- ・情報活用能力とは、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉えて把握し、情報及び情報技術を選りすぐり効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力のことである。

※ コンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を収集・整理・比較・発信・伝達したりする力であり、さらに、基本的な操作技能やプログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等も含むもの（学習指導要領解説の要約、文部科学省）

情報セキュリティ教育の必要性が
強調されている

教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン（H28年10月18日）

- ・学校の教育活動におけるICTの積極的な活用は、今後、ますます求められているところである。その際、昨今、学校が保有する機微情報に対する不正アクセス事案も発生している中で、児童生徒や外部の者等による不正アクセスの防止等の十分な情報セキュリティ対策を講じることは、教員及び児童生徒が、安心して学校においてICTを活用できるようにするために不可欠な条件であることは言うまでもない。

情報活用能力を構成する実践「能力のイメージ」	
情報活用能力の構成	<p>情報活用能力とは、情報を活用して課題を解決する能力を指す。この能力は、情報の収集・整理・評価・活用・発信・共有の5つのプロセスから構成される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 情報の収集：必要な情報を収集する能力 ● 情報の整理：収集した情報を整理する能力 ● 情報の評価：収集した情報の信頼性を評価する能力 ● 情報の活用：収集した情報を活用して課題を解決する能力 ● 情報の発信・共有：収集した情報を発信・共有する能力
実践のイメージ	<p>実践のイメージは、情報の活用能力を構成する実践のイメージを示す。実践のイメージは、情報の活用能力を構成する実践のイメージを示す。</p>
1) 実践の目的	<p>情報活用能力を育成し、学習者の生活や社会生活に活用できるようにする。</p>
2) 実践の目標	<p>学習者が情報の活用能力を身に付け、学習者の生活や社会生活に活用できるようにする。</p>
3) 実践の成果	<p>学習者が情報の活用能力を身に付け、学習者の生活や社会生活に活用できるようにする。</p>

・小学生の1分間あたりのキーボードでの文字入力数が平均5.9文字であることなども踏まえながら、着実な習得に向けて、教科等の学習との関連付けや教材の充実等を検討していくことが求められる。

③勝見委員

保護者の情報モラル教育

保護者向けネットモラル・コミック
『モラコミ通信!』誕生



学校法人エンゼル学園
勝見慶子

平成31年3月6日

保護者対象の情報モラル教育

- ・ 学歴・収入・リスク学習経験等の要因が保護者の情報モラルに影響する

調査対象から教育へ

↓

- ・ ポジティブ（光）・ネガティブ（影）の内容を含んだ情報モラル教育によって、保護者の情報モラルを高められる

『モラコミ通信!』

- ◆ 保護者がマンガ世代であることを考慮し、**レディース・コミック風**に構成
- ◆ レディース・コミックに見られる表現を適用し、**事象のマンガと文章**で構成
- ◆ クラスや学校からの配布物（学級通信）として**配布可能**





大手ネット通販サイトなどは、一度購入する分からは住所などが入力なくても買えるようにする簡易決済方式のショッピングが人気です。しかし、そこには思わぬ落とし穴があるかもしれません。

教えて！モラコ先生

モラコ先生は、ネット通販のトラブルを未然に防ぐためのアドバイスを提供しています。最新のネット通販の動向や、消費者が知っておくべきポイントについて詳しく解説します。

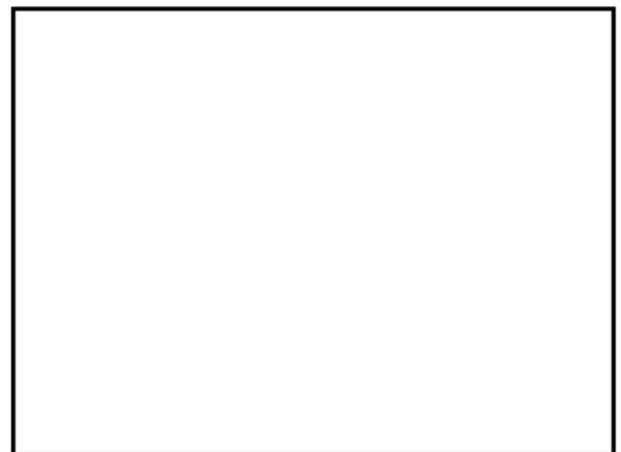
モラコ先生は、ネット通販のトラブルを未然に防ぐためのアドバイスを提供しています。最新のネット通販の動向や、消費者が知っておくべきポイントについて詳しく解説します。

ネット社会の歩き方創作委員会より

ネット社会の歩き方創作委員会より、最新のネット通販の動向や、消費者が知っておくべきポイントについて詳しく解説します。

ネット社会の歩き方創作委員会より、最新のネット通販の動向や、消費者が知っておくべきポイントについて詳しく解説します。

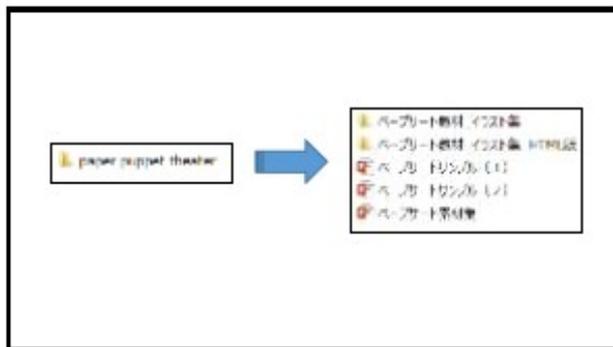
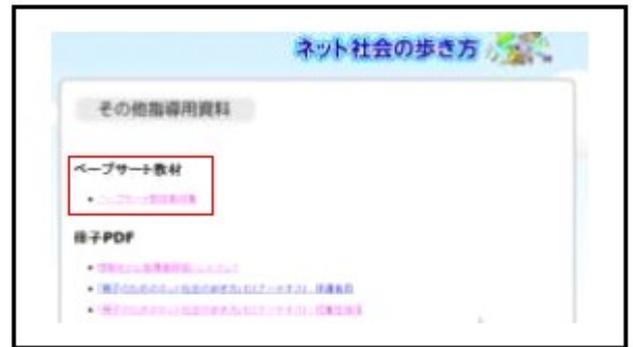
- スマホのルールは口約束じゃ無理なのだ！の巻
- 幼児にスマホってアリなのナシなのどっちなの！？の巻
- ワンクリック決済は便利と危険が紙一重！の巻
- 仲が良かったのに、SNSでいじめ！？の巻
- ご注意！ママ友の写真公開は危険の罠の巻



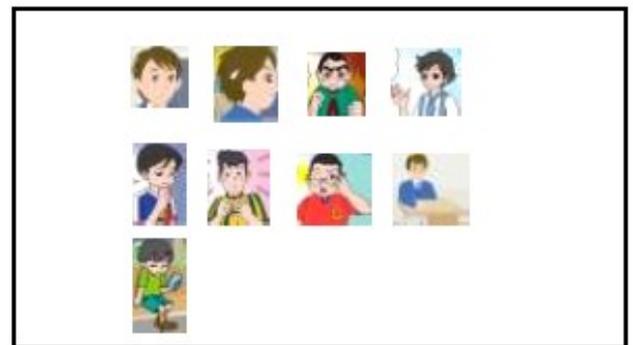
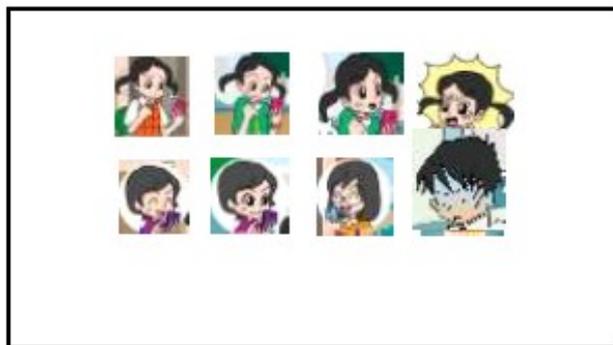
2019年5月号
モラコミ中学校
3年1組6月クラスだよ

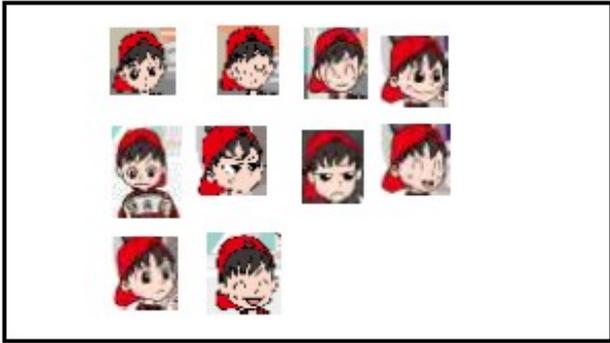
とうかさん、最高じゃけえかわええ願はんさいよ

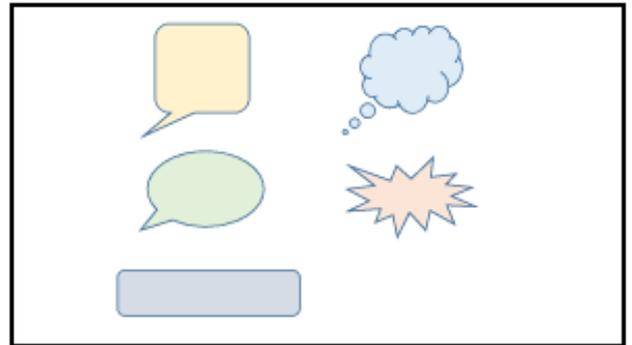
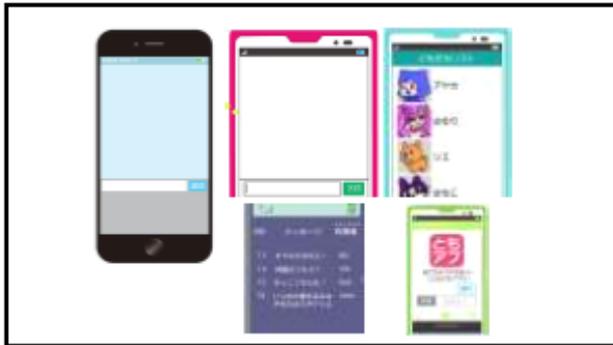
おー♡
とうかさんの写真にみんな「いいね」してくれとるわぶらうれしーの♡



素材集の一部







「ペーパーサート教材とは・・・」

情報モラル教材作成の支援環境
 →誰でも情報モラル教材を効率よく制作できる

今までの活用実践

- 情報モラル推進者養成研修
- 教員研修
- 大学での授業(新進実践演習)
- 附属小学校での授業(情報の時間)

児童の作品 1 (附属小学校6年 2歳位時間で制作)





4 解説

面白い漫画の完読するために、アンケートで**個人情報**を書いってしまったピンパさんは、300万不当な請求がきてしまった。という話だよ。

解決するには、まず親に相談しよう！



児童の作品 3

1

友達から教えてもらった。



2

とっても簡単みたいだったし、簡単そうだから、友達から教えてもらった。



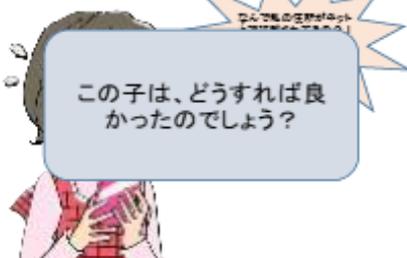
3

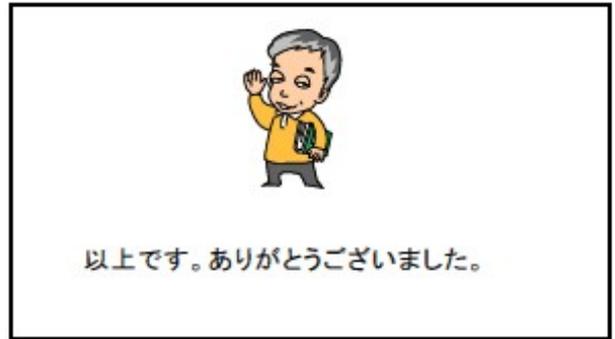
友達から教えてもらったけど、友達から教えてもらった。教えてもらった。教えてもらった。



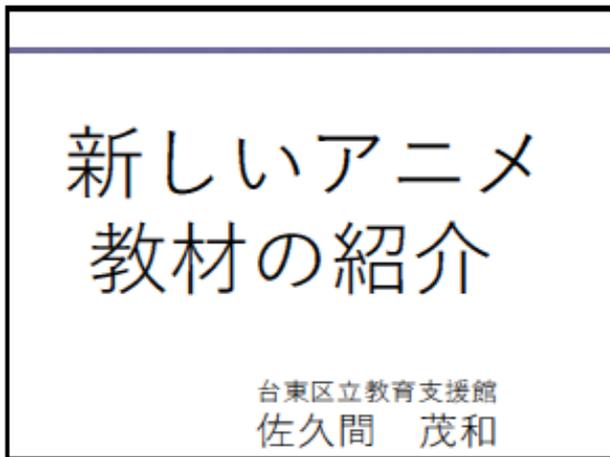
4

この子は、どうすれば良かったのでしょうか？





⑤佐久間委員



アニメ教材 新規学習ユニッ	
学番	ユニットタイトル
01	幼児向けのタブレット・スマホしょうかいの？ 動きトラブル、人とのかわり方
02	スマホ依存
03	違法アップロード
04	SNSでの肖像権
05	SNSでの著作権
06	高校生用のコミュニケーションの行き違い
07	ネットオークションの購入
08	ネットオークションの出品
09	フリマの購入
10	フリマの出品



新しいアニメ教材はここを改善

①新アニメ教材には、
タイムスケールが
表示されます

新しいアニメ教材はここを改善

ネットにマンガをアップロードしたら



新しいアニメ教材はここを改善

②トップページの
デザインと
メニューの
デザインを
変更いたします

今までのデザイン

ネット社会の歩き方

ケータイ、パソコンでどんどん広がるネット社会。
このサイトでは、ネット社会を楽しく賢く歩いていくための
考え方やノウハウを学ぶ各種教材をご提供しています。



今までのデザイン

ネット社会の歩き方

小学生
（小学1年生～3年生）

アニメで学ぼう

アニメのストーリーを楽しく理解できるようアニメ教材をご用意しています。

アニメ教材のキーワードからさがす

ネット社会のキーワードからさがす

日常の社会のキーワードからさがす

ワンクリックで開きます

オンラインショップを体験しよう

オンラインショップで体験して
正しい使い方を学びます。

電脳商店街ツアー

電脳商店街

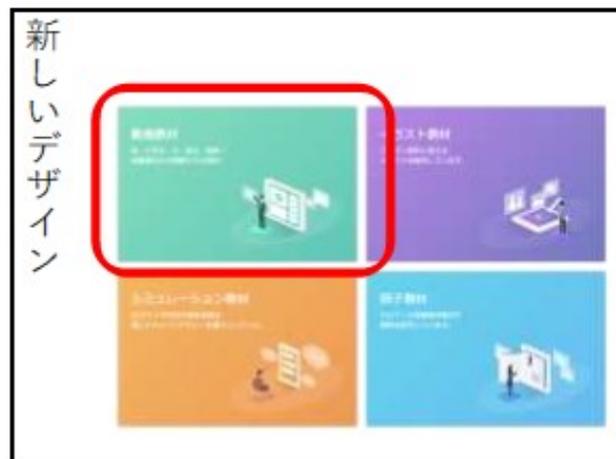
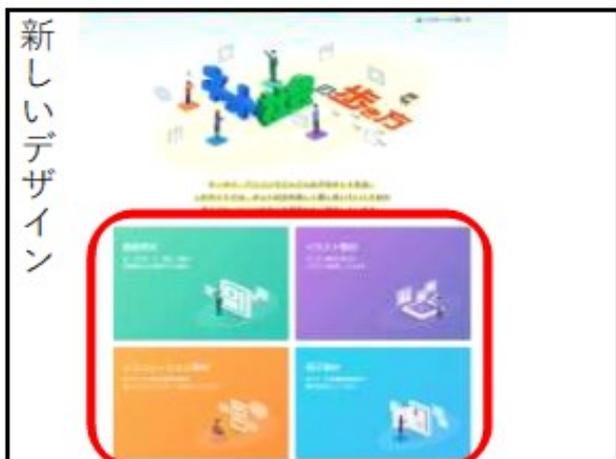
今までのデザイン

ネット社会の歩き方

小学生
（小学1年生～3年生）
キーワードからさがす

キーワードからさがす

No.	画像	タイトル	内容
1		大人向けの授業に注意	ネット社会の歩き方の授業 101 ネット社会、楽しく賢く歩いていくための 考え方、ノウハウを学ぶ各種教材をご用意しています。
2		ネット社会の歩き方	ネット社会の歩き方の授業 ネット社会の歩き方の授業 ネット社会の歩き方の授業 ネット社会の歩き方の授業



アニメ教材旧ユニットについて
 新学期ユニットを作成するにあたり
 67の旧ユニットの検討を行いました。

タブっているもの、時代に合わないものはほとんどありませんでした。いくつかダブっているものがあり、削除を検討しましたが、1つ2つ欠番が出るよりも、ダブリがあっても良いのではないかという結論に達し、結局、削除しないことになりました。

新しいアニメ教材や
 トップページのデザインは、新年度から
 スタートです。ご活用
 ください。

5. 今年度作成したコンテンツの概要

ネット社会の歩き方

— 2019 新規開発教材概要 —
<http://www2.japet.or.jp/net-walk/> (無償配布)

新規学習ユニット 11 テーマ合計 78 テーマ

アニメーションで様々な事象を確認しながら情報モラルを学べます。

- 01 **【幼児】タブレットやスマートフォンってどんなもの？**
タブレットやスマートフォンの役立て方を知り注意点を考える
- 02 **【小・道徳】おたがいさま**
間違った情報を教え、友人を怒らせたが、そのあと友人からの間違った情報で失敗した
- 03 **【小中】ネットゲームにのめり込むと**
スマートフォンのオンラインゲームにのめり込み廃人のようになってしまう
- 04 **【中高】ネットにマンガをアップロードしたら**
マンガ雑誌をスキャンしてネットで友人に配ったところ、摘発の対象となった
- 05 **【中高】SNS 投稿は肖像権に気をつけて**
SNSに親子の写真を無断で投稿したら、その母親から子どもを危険にしたと叱られた
- 06 **【中高】著作権フリーでも利用に注意！**
著作権フリーのイラストを用いてグッズを作ったが、商品化は許諾されていなかった
- 07 **【中高】コミュニケーションのすれ違い**
具合が悪く、欠席を心配した友人のメッセージを無視したら、登校した時相手から無視された
- 08 **【中高】安く買えて得したと思ったのに〔ネットオークションでの購入〕**
オークションサイトでゲームを安く落札したが、個人間取引に誘導され、雲隠れされた
- 09 **【中高】期限が切れたライブチケット〔ネットオークションでの販売〕**
ライブチケットをオークションサイトに出したが落札者から入金がなく、失効してしまった
- 10 **【中高】欲しかったのはコレじゃない〔フリーマーケットでの購入〕**
フリーマーケットサイトで破格値で購入した電子機器は店頭展示用の模型だった
- 11 **【中高】何でも売れるから出品しよう〔フリーマーケットでの販売〕**
フリーマーケットサイトで空き缶オブジェを販売したが、虫が湧いて購入者から怒られた



ネットショッピング・シミュレーター

スタンドアロン環境で動作するシミュレーション教材。ネットショッピング・シミュレーターでは8つのネットショッピングサイトを体験しながら不適切な商店を見分けるポイントなど留意点を学べます。



SNSシミュレーター

スタンドアロン環境で動作するシミュレーション教材。SNSシミュレーターでは、文章を入力してやり取りを行いながら、SNSで発生するコミュニケーションのトラブルを体験できます。



電子版ペープサート教材

プレゼンテーションソフトなどを用いて、キャラクターの表情やボディ、背景を組み合わせることでストーリーを制作できる教材。

児童生徒が自ら「ネット社会の歩き方」に関する道德教材を制作することにより、「主体的・対話的で深い学び」の題材として効果的なロールプレイ型の授業を行うことができます。

新学習指導要領において教科化された「道德科」で、情報モラル等をテーマとした道德教育の展開にご活用いただけます。



モラコミ通信 ~保護者向けの情報モラル啓発チラシ（コミック）

保護者に配布することを想定した情報モラル啓発用のチラシ。

児童間のトラブル等の背景に、保護者間での情報モラルに関するトラブルが散見されることから、学校から保護者に対して情報モラルに関する情報を提供することにより、ICTの慎重な取り扱いを促すことで、家庭教育に役立てていただくものです。



6. ペープサート教材の使い方

ペープサート教材を作ろう

次のようにして4枚のスライド教材を作ります

1. 4枚の白紙のスライドを用意する
2. 背景を貼り付ける
3. イラストをコピーして貼り付ける
4. イラストの重なりを設定する
5. 「グループ化」でイラストを一つにまとめる
6. 吹き出しにセリフを書き込む
7. テキストボックスに文字を書き込む
8. アニメーションを設定する

4枚の白紙のスライドを用意する

「挿入」→「スライド」→「新しいスライド」→「白紙」

あるいは

「挿入場所で右クリック」→「新しいスライド」→「右クリック」→「レイアウト」→「白紙」

背景を貼り付ける

背景の絵をコピー → 貼り付け



イラストをコピーして貼り付ける

「イラストの上で右クリック」→「コピー」→「右クリック」→「貼り付け」



イラストの重なりを設定する

「イラストの上で右クリック」→「最背(前)面へ移動」

※背景の後ろになって見えないときは、背景を最前面にすると出でます



「グループ化」でイラストを一つにまとめる

「Ctrlキー」を押しながら → クリック → クリック → 右クリック → 「グループ化」



吹き出しにセリフを書き込む

貼り付けた吹き出し → 右クリック → 「テキストの編集」 → 吹き出しのオレンジ色の点をドラッグ

これって、ヒロシのことじゃない？

テキストボックスに文字を書き込む

「挿入」 → 「テキストボックス」 → 「縦(横)書きテキストボックス」 → 文字を入力 → ドラッグして移動

学校にて

アニメーションを設定する

イラストをクリック → 「アニメーション」 → 「フェード」 → 次のイラストをクリック → 「フェード」

サンプルを見てみよう

1

コウタくんは部活動の仲間と毎日楽しくやりとりしていました

2

ところで、あいつが郵活に来ると和が乱れるんだよな～

ところがある日

これって、ヒロシのことじゃない？



作り方は以上です。

ペープサート教材にはいろいろな物語があります。

- 知らせてくれるもの
- 教えてくれるもの
- 警告してくれるもの
- 問いかけるもの
- 勧めてくれるもの
- 共感してくれるもの
- はげましてくれるもの

あなたはどのような物語を考えますか？

7. まとめ

近年のICT機器の進展は目覚ましく、個々のハードウェアやソフトウェアに対応した情報モラル教育は事実上不可能になっている。学校教育でよく言われる「流行と不易」を、教える側が良く考え取り組む必要がある。

スマートフォン、携帯ゲーム機の普及により、平易にいつでもどこでもインターネットを利用できる環境が子どもたちに急速に拡大した。それらの変化により誹謗中傷や言葉不足からのいじめ、ネット犯罪の被害や更に加害者となる事例、生活に支障をきたすまでのネット利用などの事例が更に深刻化した。今回の事業は、子どもたちに有効な情報モラル指導を実施させ、充実したコミュニケーションを取れるための指導を行い、更にネット依存の手前で立ち止まるための指導を行えるための対策とした事業を実施した。

ここにおいて、公益財団法人JKAの補助金を原資として、日本教育情報化振興会が情報モラル指導の教材開発と教員向けセミナーを開催することは非常に社会的に価値があると考えている。文部科学省の学習指導要領に基づいた「不易」の部分に関する指導方法の研修と、マスコミへの掲載記事に基づいた「流行」の部分に関する最新の事故、事件、リスク回避方策の伝達は、日々児童・生徒と接している教員にとって指導時の参考になっている。

日本教育情報化振興会では、「不易」な面での道徳を中心とする「心を磨く」領域の教材提供に特に力を入れていきたい。一方で、「流行」の面では情報を中心とする「情報の知識」「情報の理解」領域の教材提供に力を入れていきたい。来年度は、教員向けセミナーの開催（15ヶ所）と新学習指導要領に対応した学習教材の開発を予定している。教育委員会よりセミナーの開催数の増加の要望もきているため、できる範囲で対応していきたいと考えている。

また、新規開発予定の教材の特徴については、以下の通りである。

- ・古くなった情報モラルコンテンツ（アニメ）の改修（例：高校の道徳教材対応 等）
- ・安全な環境でコミュニケーショントラブルを体験できるローカルサーバを使った体験型ツール（SNS 等）の開発（児童生徒向け）
- ・子どもが主体的に学ぶ情報との向き合い方に関する図鑑型教材（24 頁の冊子）の開発（児童生徒向け）

最後に、少しでも多くの教員が情報モラル指導を実践できるよう、日本教育情報化振興会および委員全員が啓蒙活動に邁進する所存である。

以上

第2章

コミュニケーション力育成のための事業

1. 事業の目的

昨今のスマートフォンや携帯のゲーム機、音楽プレイヤー、ウェアラブル端末等の普及により、いつでもどこでもインターネットを利用できる環境が、子供達にまで急速に拡大した。この急激な変化により、ネット上で子供達同士が誹謗中傷発信をしたり、コミュニケーション不足からのいじめが行われている。

子供同士でのコミュニケーション不足等が原因で起こるいじめを減らすために、集団の中で共に話し合い、学び合い、助け合うためのコミュニケーション力を育成し、その重要性を自覚させる。

そして、そのためにICTをうまく活用し、表現の工夫や伝える力を向上していくことにより、広く相互に正しく理解し合えるようにする。

日本教育情報化振興会では、児童・生徒の安全安心を願い「教育現場のICT安全安心対策事業」を展開しており、この中の一つの事業として「コミュニケーション力育成のための事業」を実施している。

文部科学省の新学習指導要領では「情報活用能力は学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特性を生かし、教科横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする」と総則第2-2(1)に記載されている。しかしながら、具体的な内容は現場の教員に任されている。

本事業は、昨年度までに言語活動のスキルレベルを協調的段階としての「対話」「交流」と、主張的段階としての「討論」「説得・納得」の4つの段階に分類すると共に児童の発達段階に応じた指導方法を整理した。

また、全国の教育委員会でセミナーを開催できるように、以下のような研修モジュールとしてまとめた。

A: 理論概説

B: 課題改善

C: 参加体験

C-1: パネル討論

C-2: ブレインストーミング

C-3: ブレインストーミング+KJ法

C-4: イメージマップ

C-5: バズセッション

C-6: ポスターセッション

今年度は、上記の整理した内容を普及啓蒙するために、地域単位のセミナーを7地域（大阪、鹿児島、神奈川、金沢、広島、北海道、東京）で開催した。

また、セミナーのプログラム立案やプログラムコンテンツを開発し、趣旨説明、基調講演、模擬授業・ワークショップ、統括パネルで構成しており、参加された先生方の授業力を育成するために、21世紀型コミュニケーション力育成をめざす参加体験型とした。

研修モジュールをただ単に説明するのではなく、参加される現場の先生方に授業ですぐに活用していただけるように、コミュニケーション力を育成するためにはどのような指導を行えばよいのか、実践内容を中心としたものにした。

また、タブレット端末、思考表現ツール、ジグソー学習等を活用して学び合う、主体的・対話的で深い学びを提案するものとした。

より多くの先生方に普及啓蒙するために、セミナー内容の紹介パンフレットを作成し、セミナー開催地域（近県含む）の小学校・中学校・高校にすべて配付した。

なお、これらは公益財団法人JK Aの競輪の補助金を受け実施した。

2. 作業項目とスケジュール／作業体制

(1) 作業項目とスケジュール

作業項目とスケジュールは下記の通りである。

図表1 作業スケジュール

作業項目	平成30年									平成31年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
委員会開催	▼① 29								▼② 27			
テキスト改訂		▲-----▼										
セミナー開催					▼① 2 大阪			▼③ 10 川崎	▼④ 27 金沢		▼⑤ 16 広島	▼⑥ 2 札幌
					▼② 29 鹿児島							▼⑦ 7 東京
学習教材開発		▲-----▼										
普及啓蒙パンフレット制作		▲-----▼										
成果発表会												▼ 7

(2) 委員会の設置

本事業では有識者で構成する「コミュニケーション力育成検討委員会」を組織して作業に取り組んだ。全2回の委員会を計画し、作業スケジュールの策定、セミナー開催地の検討、セミナー用テキストの改訂、セミナー開催時の講師、集客するための施策、普及啓蒙施策、成果発表会での報告等、本事業の全体を管理した。

また、テキスト改訂の実作業、開催会場の検討や調整、連絡、セミナー開催準備は事務局が担当した。

図表2 委員一覧

所属	役職及び氏名
放送大学	教授 中川 一史 (委員長)
鹿児島大学	准教授 山本 朋弘 (副委員長)
金沢星稜大学	教授 佐藤 幸江 (副委員長)
千葉県総合教育センター	所長 秋元 大輔
鳥取県岩美町立岩美中学校	教諭 岩崎 有朋
柏市立手賀東小学校	校長 佐和 伸明
金沢市立大徳小学校	教諭 山口 眞希
仙台市立六郷小学校	校長 菅原 弘一
茨城大学	准教授 小林 祐紀
八代市立八代小学校	教諭 樋口 勇輝
佐賀市教育委員会	指導主事 横地 千恵子

図表3 事務局等の体制

所属	役職及び氏名	役割
一般社団法人日本教育情報化振興会	常務理事・事務局長 小形日出夫	責任者
同上	調査・研究開発部 部長 吉田 真和	総括
同上	普及促進部 部長 秋定 望	作業支援
同上	普及促進部 担当部長 渡邊 浩美	連絡窓口・研修対応
同上	総務部 担当部長 赤松伊佐代	JKA 対応

(3) 委員会開催

委員会開催の他、メールによる検討・決議を行った。委員会の開催日、議題は下記の通りである。

図表4 委員会開催実績

開催回数	開催日	議題
第1回	30. 4. 29	<ul style="list-style-type: none"> ・年度スケジュールの確認 *WG1: 21世紀コミュニケーション力育成セミナーの実施と評価 <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー開催地検討と担当委員の選定 *WG2: コミュニケーションツール活用に関するパッケージの開発 <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト改訂箇所の検討及び作成
第2回	30. 12. 27	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度開催予定のセミナーについて 3/7(木) 教育の情報化推進フォーラム分科会検討 ・今年度活動の総括 <ul style="list-style-type: none"> 1) 課題と来年度に向けた対策検討 ・来年度の活動方針検討 <ul style="list-style-type: none"> 1) 活動内容について 2) 委員会体制の検討 3) 委員会開催日調整

(4) セミナー開催企画

セミナーの開催地は以下の要領で行った。

1) テーマ

「ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを実現する授業力育成」

2) 開催時期と時間

平成29年 5月から平成30年3月の間の午後、約4時間

3) 対象受講者と会場あたりの定員

教職員 約100名程度 (目安)

4) 開催会場

座席数100名程度のセミナー会場(有料会場)

5) セミナーの具体的な内容

コミュニケーション力育成検討委員会検討委員会と事務局の協議で決定する

6) セミナーのプログラム (例)

テーマ: ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを実現する授業力育成セミナー

① 趣旨説明: 放送大学 教授 中川 一史

② 基調講演: 「プログラミング教育のこれから」
(一社)日本教育情報化振興会 会長 赤堀 侃司

③ 模擬授業: 「主体的・対話的で深い学びの視点からのタブレット端末等の活用」

a. 小学校5年算数「かたちであそぼう」
～タブレット端末活用と対話的な学びのポイント解説～

鹿児島大学大学院 准教授 山本 朋弘

b. 小学校5年社会「これからの食料生産とわたしたち」

金沢市立大徳小学校 教諭 山口 真希

- c. 中学校3年理科「太陽と恒星の動き」
鳥取県岩美町立岩美中学校 教諭 岩崎 有朋
- d. 小学校6年算数「きみたちはコインパーキングのオーナーになれるか」
金沢星稜大学 教授 佐藤 幸江
- e. 小学校5年社会「情報社会を生き抜くための3箇条をまとめよう」
茨城大学 准教授 小林 祐紀
- f. 中学校3年理科「太陽と恒星の動き」
鳥取県岩美町立岩美中学校 教諭 岩崎 有朋

④ 総括パネル

- コーディネーター 放送大学 教授 中川 一史
- パネラー(*) 金沢星稜大学 教授 佐藤 幸江
- 鹿児島大学 准教授 山本 朋弘
- 茨城大学 准教授 小林 祐紀

* 開催地域により、異なる。

(5) セミナー用テキスト改訂

新学習指導要領を見据えたICTやコミュニケーションツールをセミナーテキストの改訂作業を行った。また、コミュニケーション力育成ツールの差し替えを行った。

(6) セミナー内容普及促進用パンフレット製作

セミナーへ多数参加いただくために、また、開催地域の学校へセミナー内容の普及促進のために、セミナー内容を紹介した8ページ構成のパンフレットを制作した。

3. セミナー開催

(1) セミナー開催

本事業で提供するセミナーは、全国の小中学校が掲げている研究テーマの一プログラムとして実施される場合が多い。この関係で教員が比較的時間を確保し易い、土曜日や学校の休み期間に開催している。

図表5 セミナー開催実績

開催回数	開催日	開催場所	講師	人数
第1回	30. 8. 2	大阪／関西教育 ICT 展・インテックス大阪	中川委員長 佐藤副委員長 菅原委員 小林委員 山口委員	113名
第2回	30. 8. 29	鹿児島県伊仙町／ 徳之島交流ひろば「ほーらい館」	中川委員長 山本副委員長 佐藤副委員長 岩崎委員	129名
第3回	30. 11. 10	川崎／カルッツかわさき (川崎市スポーツ・文化総合センター)	秋元委員 小林委員 山口委員	32名
第4回	30. 12. 27	金沢／金沢大学附属小学校	中川委員長 佐藤副委員長 岩崎委員 佐和委員 菅原委員	133名
第5回	31. 2. 16	広島／JMS アステールプラザ	中川委員長 佐藤副委員長	56名

			岩崎委員 赤堀会長	
第6回	31. 3. 2	札幌／札幌駅前ビジネススペース	中川委員長 佐藤副委員長 秋元委員 小林委員 赤堀会長	106名
第7回	31. 3. 7	東京／教育の情報化推進フォーラム (オリンピックセンター)	中川委員長 佐藤副委員長 秋元委員 小林委員 佐和委員 山口委員	パネル 323名 模擬 212名
合計				1104 名

図表6 関西教育ICT展内関西セミナー（インテックス大阪）の様子（平成30年8月2日）



図表7 徳之島・伊仙町セミナー（徳之島交流ひろば「ほーらい館」）でのセミナーの様子（平成29年7月1日）



図表8 神奈川セミナー（カルッツかわさき）の様子（平成30年11月10日）



図表9 金沢（金沢大学附属小学校）の様子（平成30年12月27日）



図表10 広島（JMSアステールプラザ）の様子（平成31年2月16日）



図表11 札幌（札幌駅前ビジネススペース）の様子（平成31年2月16日）



図表12 東京セミナー（オリンピックセンター）での模擬授業の様子（平成31年3月11日）



(2) セミナー参加者の所感

セミナー参加者の所感を以下に抜粋する。

- 1) 利用すると便利で、子どもたちも積極的に授業に参加してくれると思う。電子機材に頼りすぎではなく、「共有」いいところを取っていく授業を行いたい。
- 2) ICTはツールであり、使うことが大切ではなく、考えが整理されたり、視覚化するためのツールとして使う考えが深めるための課題を工夫したり、協同する場をつくり、協同する環境をつくるのが大切だと考えることができた。
- 3) ICTの知識が全くなく、このようなセミナーははじめてでしたが、よくわかりました。これからのようなことについても勉強するとよいかわかりました。

- 4) ツールの使い方ではなく、どのような考えでツールを使うかというもので、とても参考になった。今後の実践に「どう表現させるか」を意識して活かしていきたい。
- 5) 小、中学の先生方がかかえる問題を共有できた部分が有り、また、プログラミング教育への理解もでき、有意義な時間でした。
- 6) ICTという言葉だけをよく耳にすることになり、全くわからない自分が不安でしょうがなかったのですが、今回参加して一歩踏み出せたような気がします。

(3) 受講者へのアンケート

セミナー内容を改善するために受講者へ以下のアンケートを実施した。

図表 1 3 受講者向けアンケートシート (おもて)

★マークのしかた



(一社) 日本教育情報化振興会 (J A P E T & C E C) 主催
「ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを実現する授業力育成セミナー」アンケート

本日の研修内容と児童生徒の主体的・対話的で深い学びを実現する授業として、普段の授業でどの程度指導されているか、あてはまるものをでお答えください。

選択式の回答は、該当箇所のマーク①を塗りつぶしてご回答ください。
 ①: 空白マーク ②: 正しいぬりつぶし ③: 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。
 この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

- (1) 【択一選択設問】 今回の研修を受講して、コミュニケーション力育成への興味・関心が高まったと思いますか。 [A : 注意]
 とてもそう思う 少しそう思う あまり思わない まったく思わない
- (2) 【択一選択設問】 今回の研修を受講して、今後のコミュニケーション力育成の指導に役立つと思いますか。 [R : 関連性]
 とてもそう思う 少しそう思う あまり思わない まったく思わない
- (3) 【自由記述設問】 前の(3)の設問で、「とてもそう思う」「少しそう思う」と回答した方へ、どんな場面(教科・単元)どのように役立つと思うか、以下に記入してください。
- (4) 【択一選択設問】 今回の研修を受講して、今後のコミュニケーション力育成や言語活動の充実での指導に自信をつけることができましたと思いますか。 [C : 自信]
 とてもそう思う 少しそう思う あまり思わない まったく思わない
- (5) 【択一選択設問】 今回の研修内容は、あなたにとって満足することができたと思いますか。 [S : 満足感]
 とてもそう思う 少しそう思う あまり思わない まったく思わない
- (6) 【択一選択設問】 今回の研修がきっかけとなって、今後の授業や指導が変わると思いますか。
 とてもそう思う 少しそう思う あまり思わない まったく思わない
- (7) 【択一選択設問】 今回の研修がきっかけとなって、子どもたちのコミュニケーション力が高まると思いますか。
 とてもそう思う 少しそう思う あまり思わない まったく思わない
- (8) 【択一選択設問】 今回の研修がきっかけとなって、コミュニケーション力育成や言語活動の充実に対する意識が変わったと思いますか。
 とてもそう思う 少しそう思う あまり思わない まったく思わない

裏面に続く →

1 / 2
平成 2018 年

図表 1 4 受講者向けアンケートシート（うら）

★マークのしかた



(9) 【複数選択設問】 今後の研修の中で、コミュニケーション力育成や言語活動の充実に関連する内容で特に取り上げたい内容や知りたい内容をすべて回答してください（複数回答可）

コミュニケーション力育成 能力表解説 授業研究・指導案改善 パネルディスカッションの理論
 ディベート バズセッション イメージマップ ブレーンストーミング
 KJ法 ポスターセッション

(10) 【設問グループ】 あなたは普段の授業で、次の学習活動をどの程度指導しているか、お伺いします。「指導されている程度」をお答えください。（各項目、1つをマーク）

		指導程度			
		十分指導している	指導している	あまり指導していない	まったく指導していない
1	相手の考えに関心を持って聞く	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	自分の考えを相手に話す	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	相手の考えに共感しながら聞く	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	相手の話を受けて話したり質問したりする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	相手の考えを聞きながら、相手の目的や立場を理解する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	自分の考えを整理し、目的や立場に応じて伝える	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	相手の考えを聞きながら、考えの共通点や相違点を理解する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	考えの共通点や相違点を確認し合う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	話題について多様な考えを出し合い、受け入れる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	話題について多様な考えを出し合い、考えを深める	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	自分の考えが分かってもらえたか相手の発言や表情で確認し、新たな説明の仕方を検討する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	筋道立った説明をしようとしているか再考し、相手に伝える	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	論議について多面的な意見を出し合いながら、共通理解を深める	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14	自分の経験やものの例えを用いて、相手を説き伏せる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(11) 【自由記述設問】 本セミナーについて、お気づきのこと等ございましたら、以下に記入してください。

2 / 2
調査 2018年

1) アンケート集計結果

セミナー受講者のアンケート集計結果を図表 15 から 36 にまとめた。

① コミュニケーション力育成への興味・関心

今回の研修を受講して、コミュニケーション力育成への興味・関心が高まったと思う受講者が多い。

図表 15 コミュニケーション力育成への興味・関心 (単一選択)

とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	全く思わない	無回答	合計
110	95	8	1	3	217
50%	43%	3%	0%	1%	100%

② コミュニケーション力育成の指導

今回の研修を受講して、今後のコミュニケーション力育成の指導に役に立つと思う教員がほとんどを占める。

図表 16 コミュニケーション力育成の指導 (単一選択)

とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	全く思わない	無回答	合計
104	95	15	0	2	216
48%	43%	6%	0%	0%	100%

③ コミュニケーション力育成や言語活動の充実

今回の研修を受講して、今後のコミュニケーション力育成や言語活動の充実での指導に自信を付けることができた受講者が大半を占める。

図表 17 コミュニケーション力育成や言語活動の充実 (単一選択)

とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	全く思わない	無回答	合計
30	143	35	3	6	217
13%	65%	16%	1%	2%	100%

④ 研修満足度

今回の研修内容については、ほぼ満足している。

図表 18 研修満足度 (単一選択)

とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	全く思わない	無回答	合計
118	85	11	1	2	217
54%	39%	5%	0%	0%	100%

⑤ 授業や指導の変化

今回の研修がきっかけとなって、今後の授業や指導が変わる教員が多数を占めている。

図表 1 9 担当教科別受講者数（複数選択）

とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	全く思わない	無回答	合計
58	146	9	0	4	217
26%	67%	4%	0%	1%	100%

⑥ 子供たちのコミュニケーション力

今回の研修がきっかけとなって、子供たちのコミュニケーション力が高まると回答した受講者がほとんどであった。

図表 2 0 子供たちのコミュニケーション力の向上（単一選択）

とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	全く思わない	無回答	合計
37	151	26	0	3	217
17%	69%	11%	0%	1%	100%

⑦ 意識の変化

今回の研修がきっかけとなって、コミュニケーション力育成や言語活動の充実に対する意識が変わった受講者がほとんどであった。

図表 2 1 コミュニケーション力育成や言語活動の充実に対する意識の変化（単一選択）

とてもそう思う	少しそう思う	あまり思わない	全く思わない	無回答	合計
67	126	20	1	3	217
30%	58%	9%	0%	1%	100%

⑧ 特にとりあげてほしい内容や知りたい内容

コミュニケーション力育成や言語活動の充実に関する内容で特にとりあげてほしい内容や知りたい内容は、「授業研究・指導案改善」「コミュニケーション力育成の理論」「KJ法」が多かった。

図表 2 2 特にとりあげてほしい内容や知りたい内容（複数選択）

1. 授業研究・指導案改善	95	43%
2. コミュニケーション力育成の理論	77	35%
3. イメージマップ	35	16%
4. ポスターセッション	23	10%

5. ディベート	37	17%
6. パネルディスカッション	29	13%
7. KJ法	29	13%
8. ブレインストーミング	33	15%
9. バズセッション	26	11%
10. 能力表解説	20	9%

2) 学習活動の指導がどの程度行っているか

セミナー受講者に次の学習活動をどの程度指導しているかについて、アンケート集計結果を図表 23 から 35 にまとめた。

① 相手の考えに関心を持って聞く

多くの受講者が十分指導または指導を行っている。

図表 23 指導程度 [相手の考えに関心を持って聞く] (単一選択)

十分指導をしている	指導している	あまり指導していない	全く指導していない	無回答	合計
30	136	13	2	36	217
13%	62%	5%	0%	16%	100%

② 自分の考えを相手に話す

大半の受講者が十分指導または指導を行っている。

図表 24 指導程度 [自分の考えを相手に話す] (単一選択)

十分指導をしている	指導している	あまり指導していない	全く指導していない	無回答	合計
56	113	11	1	36	217
25%	52%	5%	0%	16%	100%

- ③ 相手の考えに共感しながら聞く
大半の受講者が十分指導または指導を行っている。

図表 2 5 指導程度 [相手の考えに共感しながら聞く] (単一選択)

十分指導をしている	指導している	あまり指導していない	全く指導していない	無回答	合計
34	118	28	1	36	217
15%	54%	12%	0%	16%	100%

- ④ 相手の話を受けて話したり質問したりする
半数あまりの受講者が十分指導または指導を行っている。

図表 2 6 指導程度 [相手の話を受けて話したり質問したりする] (単一選択)

十分指導をしている	指導している	あまり指導していない	全く指導していない	無回答	合計
30	111	45	2	29	217
13%	51%	20%	0%	13%	100%

- ⑤ 相手の考えを聞きながら、相手の目的や立場を理解する
半数あまりの受講者が十分指導または指導を行っている。

図表 2 7 指導程度 [相手の考えを聞きながら、相手の目的や立場を理解する] (単一選択)

十分指導をしている	指導している	あまり指導していない	全く指導していない	無回答	合計
17	115	52	1	30	217
7%	52%	23%	0%	14%	100%

- ⑥ 自分の考えを整理しながら、目的や立場に応じて伝える
半数あまりの受講者が十分指導または指導を行っている。

図表 2 8 指導程度 [自分の考えを整理しながら、目的や立場に応じて伝える] (単一選択)

十分指導をしている	指導している	あまり指導していない	全く指導していない	無回答	合計
25	121	38	1	32	217
11%	55%	17%	0%	14%	100%

- ⑦ 相手の考えを聞きながら、考えの共通点や相違点を理解する
半数あまりの受講者が十分指導または指導を行っている。

図表 2 9 指導程度 [相手の考えを聞きながら、考えの共通点や相違点を理解する] (単一選択)

十分指導をしている	指導している	あまり指導していない	全く指導していない	無回答	合計
39	118	29	1	30	217
17%	54%	13%	0%	13%	100%

- ⑧ 考えの共通点や相違点を確認し合う
 半数あまりの受講者が十分指導または指導を行っている。

図表 3 0 指導程度 [考えの共通点や相違点を確認し合う] (単一選択)

十分指導をしている	指導している	あまり指導していない	全く指導していない	無回答	合計
33	121	36	0	27	217
15%	55%	16%	0%	12%	100%

- ⑨ 話題について多様な考えを出し合い、受け入れる
 半数あまりの受講者が十分指導または指導を行っている。

図表 3 1 指導程度 [話題について多様な考えを出し合い、受け入れる] (単一選択)

十分指導をしている	指導している	あまり指導していない	全く指導していない	無回答	合計
28	124	37	3	19	217
13%	58%	17%	1%	9%	100%

- ⑩ 話題について多様な考えを出し合い、考えを深める
 半数あまりの受講者が十分指導または指導を行っている。

図表 3 2 指導程度 [話題について多様な考えを出し合い、考えを深める] (単一選択)

十分指導をしている	指導している	あまり指導していない	全く指導していない	無回答	合計
19	113	56	2	27	217
8%	52%	25%	0%	12%	100%

- ⑪ 自分の考えがわかってもらえたか相手の発言や表情で確認し、新たな説明の仕方を検討する。
 半数弱の受講者が十分指導または指導を行っている。

図表 3 3 指導程度 [自分の考えがわかってもらえたか相手の発言や表情で確認し、

新たな説明の仕方を検討する] (単一選択)

十分指導をしている	指導している	あまり指導していない	全く指導していない	無回答	合計
8	69	92	13	35	217
3%	31%	42%	5%	16%	100%

- ⑫ 筋道立った説明をしようとしているか再考し、相手に伝える。
半数弱の受講者が十分指導または指導を行っている。

図表34 指導程度 [筋道立った説明をしようとしているか再考し、相手に伝える] (単一選択)

十分指導をしている	指導している	あまり指導していない	全く指導していない	無回答	合計
12	90	71	8	36	217
5%	41%	32%	3%	16%	100%

- ⑬ 議論について多面的な意見を出し合いながら、共通理解を深める。
半数あまりの受講者が十分指導または指導を行っている。

図表35 指導程度 [議論について多面的な意見を出し合いながら、共通理解を深める] (単一選択)

十分指導をしている	指導している	あまり指導していない	全く指導していない	無回答	合計
8	103	63	7	36	217
3%	47%	29%	3%	16%	100%

- ⑭ 自分の経験やもののたとえを用いて、相手を説き伏せる。
半数弱の受講者が十分指導または指導を行っている。

図表36 指導程度 [自分の経験やもののたとえを用いて、相手を説き伏せる] (単一選択)

十分指導をしている	指導している	あまり指導していない	全く指導していない	無回答	合計
6	57	94	24	36	217
2%	26%	43%	11%	16%	100%

4. 学習教材開発

昨年までに開発したコミュニケーション力を育成するための授業力を育成するための教材（研修モジュール）をさらに具体的な授業実践と結びつけて、現場の先生方にわかりやすいような教材を開発した。

今回は、21世紀型コミュニケーションツールの中でも特にICT（タブレット端末）やホワイトボード、マッピングに関する教材パッケージを活用したものとした。

実際の授業での活用を提案する模擬授業を行ったが、その指導案が以下である。

(1) 模擬授業の学習指導案（例）

1) 図表37 小学校第5学年 国語科 山口眞希先生 学習指導案(1)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業力育成セミナー

小学校第5学年 国語科 学習指導案

金沢市立大徳小学校 教諭 山口眞希

1 学年・教科
第5学年・国語科

2 単元名
新聞の読み方名人になろう
教材名：新聞の編集のしかたや記事の書き方に目を向けよう「新聞を読もう」（光村図書）

3 単元の目標

- ・ 発信者がどんな読み手を意識しているかによって内容や表現が違ふことや、見出しや写真の工夫などによる効果について理解しながら読むことができる。
- ・ 複数の新聞記事を読み比べることの良さについて考えることができる。

4 主体的・対話的で深い学びをめざした授業改善の視点

児童は、国語以外でも社会や総合的な学習の時間で調べたことを新聞にまとめるという経験はある。しかし、日常生活で新聞を購読しない家庭も増えているなか、日頃から新聞を読む児童は少なく、新聞の特性に関する知識も少ないと考えられる。ましてや紙面全体の構成や記事の構成を意識して読むことや、複数の記事を読み比べて編集のしかたの違いを確認しながら読むという経験はほとんどないと考える。

本単元では、基本的な新聞の編集のしかたや記事の書き方、いろいろな面で構成されていることなどを理解し、そのうえで複数の新聞を読み比べ、編集の仕方を比較する。同じ出来事でも、全国紙と地方紙では表現に違いがある。読み比べ、さらに読み比べて感じたことを交流することで、ものの捉え方には人によって違いがあることや、発信者の意図によって内容や表現が変わることに気づかせたい。このことを理解することは、メディア・リテラシーを身につけることにもつながる。また、読み比べることは「理解を深め、ものの見方を広げる」という利点がある。新聞というメディアには他社の新聞を読み比べたり、同じ話題について別の面で書かれた記事を読み比べたりするなどいろいろな読み方ができる。新聞の読み方を学習することは、児童の今後の生活や学習を支える。読み比べることの意義について考えを深められるような授業展開を工夫する。

5 コミュニケーションツールの活用

- ・ タブレット端末の活用
新聞をタブレット端末上で見ることによって、小さい文字に抵抗感がある児童も大きく拡大して見たり、比較したりできる。さらにタブレット端末に書き込むことで、保存や共有が容易になる。また、学習後に教育用SNSを使って、興味を持った新聞記事と自分の感想をアップする活動を想定している。友達からコメントをもらったり他の人の投稿を読むことで、自分の関心のなかった記事に興味を持てたり、同じ記事でも人によって捉え方が違うことに気づいたりできると考える。
- ・ 心情円盤の活用
本時では、自分が手に取りたい新聞はどれか？と発問する場面がある。どの新聞を選択したかが一目で分かるよう、心情円盤を使って意思表示する。その際に、Aも読みたいけれど、Bを読みたい気持ちも少しあると考える人は、色の配分を変えることで葛藤を表現できるようになる。なぜその配色にしたのか、理由を聞きたくなくなるであろう。「同じ配色の人と交流すると自分の考えが確かになり、違う配色の人と交流すると考えが広まる。だから目的を持って交流しよう」と伝え、多様な人と関わり合いながら学べるようにする。

図表 3 8 小学校第 5 学年 国語科 学習指導案(2)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業力育成セミナー

6. 本時の展開 (3/4時間)

本時の目標 …… 新聞を読み比べることを通して、発信者がどんな読み手を意識しているかによって記事の内容や表現が違うことを理解することができる。

学習活動	学習内容	留意点
1 本時のめあてをつかむ	○金環日食についての全国紙と地方紙の記事を比較してみましょう。どんなことが違いますか？ ・見出しや数字、地名などたくさん違いがある ＜同じ出来事でも記事の書き方が違うのはなぜか＞	
2 自分の考えを持ち、伝え合う	・京都の人が読むから、「京都で何年ぶりに見られたか」が分かるような見出しで、全国の人が読むから、日本広域で見られるのは何年ぶりかが分かるように書いている ・誰が読むかに合わせて書き方を変えている	・グループで解を出すことによって、対話的に課題を解決できるようにする
3 考えを深める	○他の記事でも同じことが言えるでしょうか。 これは「羽生選手の凱旋パレード」の記事です。羽生選手の地元の新聞は、仙台の人のことを考えた書き方をしているかな？ ・ただいま、故郷、地元、東北の復興という言葉 ・記事を扱う大きさも地元の人の喜びを表している ○両方手に入るとしたらどちらの新聞を読みたいですか。 ・私は羽生選手のことを詳しく知りたいから地方紙 ・僕は他のニュースを知りたいから全国紙 ・私は羽生選手のことでも詳しく知りたいから全国紙の一面の記事にも興味があるから両方	・発信者が読み手に合わせた書き方をしていることの意味を深められるよう、羽生選手の地元・仙台の新聞と全国紙を比較させる ・互いの考えが一目で分かるよう、心情円盤で意思表示する ・新聞を選んだ理由を問い、「理解を深め、多様な見方ができる」という新聞を読み比べる良さにつなげる
4 分かったことをまとめる	どの新聞を選ぶかによって、詳しい情報を知れたり違う情報を知れたりするんですね。目的に応じて読む新聞を選んだり、比べて読んだりすることも「良い読み方」の一つですね。 同じ出来事でも読む人に合わせて見出しや記事の書き方に違いがあると分かった。より詳しい情報や違う情報を知ることができるから、一紙だけでなく読み比べをするとよい。図書館にある新聞も読み比べたい。	新聞を読み比べることを通して、読み手に合わせて記事の内容や表現が違うことを理解し、読み比べることの意義について考えている

本時の評価 (読むこと)

B基準 新聞を読み比べることを通して、読み手に合わせて記事の内容や表現が違うことを理解し、読み比べることの意義について考えている。

A基準 新聞を読み比べることを通して、読み手に合わせて記事の内容や表現が違うことを理解し、読み比べることの意義に気づくことができ、今後の生活に生かそうとしている。

2) 図表 3 9 小学校第 5 学年 社会科 小林祐紀先生 学習指導案(1)

模擬授業 指導用資料

2018.09.08 小林祐紀

第 5 学年 社会科

「情報社会を生き抜くための 3 か条～学んだことをプレゼンテーションする～」

準備物

タブレット端末, 大型提示装置, ホワイトボード

授業の概要

新編「新しい社会 5 下」において、「3 情報を生かすわたしたち (東京書籍)」という小単元が設定されている。情報化社会の中で、どのようにふるまうべきかを子どもたちなりに考え、表現することが求められている。

そこで、学習の成果として「情報社会を生き抜くための 3 か条」を決定し、グループごとにプレゼンテーションする学習を計画した。

単元の学習計画

①学習計画を立てる。

②情報産業とわたしたちの暮らし (小単元)

放送などの情報産業が国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや、情報産業を通じた情報の有効な活用が大切であることを理解するとともに、情報産業の発展に関心をもち、情報を有効に活用しようとする。

③社会を変える情報 (小単元)

医療現場における情報ネットワークの活用について意欲的に調べ、情報ネットワークの発達など情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることを理解する。

④情報を生かすわたしたち (小単元)

情報化の進展には様々な利点とともに問題点もあることや、生活の中で様々な情報を有効に活用することが大切であり、情報を受け取るだけでなく送り手としても責任ある行動が必要であることを理解し、日常の生活に生かそうとする。

⑤④の続きとして学習のまとめとしてのプレゼンテーションを行う。

生活における情報の活用の様子から学習問題を見いだし、各種の資料やインターネットなどを活用して必要な情報を集め、読み取ったことを文章や作品にまとめるとともに、情報の活用について思考・判断したことを適切に表現する。

引用：東京書籍平成 27 年度用「新編 新しい社会」年間指導計画作成資料より
今回の模擬授業では、⑤を中心に体験することとする。

模擬授業の展開と意図

1) 3 か条にどんな内容がふさわしいのかを一人一人が考える。一人一人が一生懸命考えることで、グループで意見を持ちよったときに議論になるのである。その際に、考えやすくするために「～して (注意点), …するべし (良い点)」という提言型の原稿枠を用意する。一人 3 つ以上を考えることを目指す。

図表 4 0 小学校第 5 学年 社会科 学習指導案(2)

2) 次に、ホワイトボードを使ってグループで議論を行い、「3か条」の決定に至った。どの順番でプレゼンテーションするのも考える。さらに、分担を決める。そして分担が決まったところから説明（解説）を考える。

説明とは以下のようなイメージであることを子どもたちと共通理解する。

(例) CM は大げさな表現に注意して、利用するべし。

授業では洗剤の CM を見ましたね。あの CM は白いイメージを強調するためによく見るとあり得ない大げさな表現が使われていました。大げさな表現を信じてすぐを買うのではなく、本当に必要なかを考えイメージだけに影響を受けずに、買うかどうかの判断をする必要があります。

「具体的にいうと…」 「例えば…」 「授業では…」 などの言葉を用いて、「3か条」の行間を補う説明を考えさせる。説明を考えたグループからタブレット端末用いて、発表資料づくりを行い、次いでグループでの発表練習を行う。

3) 最終的に、タブレット端末を大型提示装置に接続して発表会をい行う。タブレット端末はあくまでも資料を提示するだけ（提示するタイミングなどの要素も重要だが）であるので、実際の授業は、他の資料（実際の広告やポスター、寸劇も！）を使用するグループが大半であった。

ICT を活用する主な利点

学級内でプレゼンテーションを行いたい。そんなとき、どうするだろうか。

画用紙を使ってもプレゼンテーションはできる。しかし、小さくて見えづらく、子どもの学習意欲も高まりにくい。そんなとき、タブレット端末と大型提示装置を用いることで学級内でのプレゼンテーションがすぐに実現する。

学習のまとめとして行うプレゼンテーションだからこそ、内容は至ってシンプルでよい。今回の実践の場合、画面作成に費やした時間は 30 分～45 分程度である。限られた中だからこそ、子どもたちの学習意欲は高まり、ほどよい緊張感も生まれる。さらになんと言っても修正が容易である。発表会直前の休み時間に手直しするグループも見られた。本当に手軽に表現できる。

ICT を活用する際の主な留意点

プレゼンテーションソフトは多機能であれば良いというわけではない。

特に限られた時間内で活用する場合は、多機能さがあだとなる場合も多い。色にこだわってしまったら、アニメーションをいろいろ試したりしていると時間はあっという間に過ぎてしまう。だからこそ、画面は極めてシンプルに作るように指導する。大切なことはグループで決定した考えを、友だちにしっかりと伝えることであるということ強く指導する。そうすることで、子どもたちは内容や伝え方にこだわって練習に時間をかけるようになっていく。

付記：この模擬授業及び「模擬授業 指導用資料」は、小林祐紀（2013）「情報社会を生き抜くための 3 か条」、pp44-45、中川一史監修（2013）「ICT で伝えるチカラ 50 の授業・研修事例集」、フォーラム・A をもとに実施・執筆しました。

3) 図表 4 1 小学校第 6 学年 算数科 佐藤幸江先生 学習指導案(1)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業力育成セミナー

小学校 第 6 学年 算数科 学習指導案

日時：平成 30 年 9 月 8 日（土）

指導者：佐藤 幸江

1 学年・教科

第 6 学年・算数科

2 単元名 「キミはコインパーキングのオーナーになれるか」

3 単元の目標

- 駐車場の看板の数値や言語から駐車料金に関する情報を取り出し、計算することができる。（知識・技能）
- いくつかの駐車場の料金を計算して比較することで、料金の違いの要因を考える。（思考・判断・表現）
- 自分たちがコインパーキングのオーナーになったらどのように工夫して看板を制作するか、考えを明確にして看板作りをしている。（学びに向かう力）

4 主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりのポイント

この単元は、コインパーキングの看板から数値や言語など駐車料金に関する情報を取り出し、式や表、グラフなどを活用してある時間帯に止めたときの料金を考える。そして、複数のコインパーキングの看板を比較することで、看板制作の意図や工夫に気づき、自分たちがコインパーキングのオーナーになったら、どのような看板にするかを考えて表現する。一人では、なかなか難しい課題のように感じられても、みんなで知恵を合わせると解決できる体験を積ませる。解決に向けて自分の考えを積極的に交流する姿が見られるであろう。

また、本単元の課題を解決する中で、実社会で目にする情報の理解、またそれを選択して利用するためには、数学的な見方や考え方を働かせる必要があることに気づき、実際に式や表、グラフなどこれまでの学習を生かして計算したり看板を制作したりするようにより、実社会につながる深い学びになると考える。

5 コミュニケーションツールの活用

○タブレット端末の活用

タブレット端末には、事前に撮影した駐車料金の看板の写真、場所の地図などを共有フォルダに入れておく。写真の全体を見たり部分を見たりしながら、駐車料に関する情報を取り出したり、場所を確認して利用者の状況を考えたりと問題解決の際の一助とさせる。また、カメラ機能を使って制作した看板シートを撮影し、そのように配置した根拠を説明する際に活用する。考え方やそれぞれの意図の違いなどに気づき、今後駐車場を利用する際にも本学習が生かされることを期待したい。

○ホワイトボードの活用

今回は、取り出した情報を書き込むツールとする。第 1 時間目に取り出した情報を項目に分けておく。第 2～3 時間目においても同じ項目を使って情報を書き込むことで、3 つの駐車場を比較して、看板の制作の意図を考える際に活用することができる。また、それをもとに、自分たちがオーナーになった際にはどのような看板を制作するかを考える際にも活用する。

6 単元の指導計画 （3 時間）

目標	学習活動と内容	○教師の留意点	資料
第 1 時間目 ・ C 駐車場の看板から数値や言語など駐車料金に関する	① C 駐車場の看板から情報を読み取る。 ・ 通常料金と最大料金がある	○コインパーキングについて利用したことがない児童がいた場合は、補足説明をする。	C 駐車場の写真と地図

図表 4 2 小学校第 6 学年 算数科 学習指導案(2)

主体的・対話的で深い学びを実現する授業力育成セミナー

<p>る情報を取り出すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車料金を、四則計算など既習事項を活用して求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1時間あたりの時間で料金を計算すればよい。 ② ある時間駐車した時の料金を求める。 ・ 5時間20分だと3100円けれども、7:00~18:00であれば600円 ・ 昼間に止めると安くなることをアピールしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1時間あたりに直して考えればよいことに気づかせる。 ○ うまく考えられない児童には、数直線シートの活用をすすめる。 ○ この駐車場の料金サービスについて考えるようにする。 	<p>数直線シート</p>
<p>第2時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筋道立てて駐車料金に関して考え、四則計算などの既習事項を活用して料金計算ができる。 ・ 3つの駐車場の料金を比較し、駐車料金に差が出る要因について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ① (ペア) A, Bそれぞれ分担をして、駐車場の看板から情報を読み取り、ある時間駐車した時の料金を求める。 ② (班) A, Bそれぞれの駐車場の料金について情報交流する。 ③ 自分だったら、A, B, Cどここの駐車場に止めるか、それはなぜかを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に見つけた項目に従って、ペアで1つの駐車場の料金情報を取り出し、5時間20分の駐車料金を計算で出す。料金サービスについても考えさせる。 ○ それぞれの駐車料金に関してグループで情報交換をさせ、それぞれの駐車場の看板には意図があることに気づかせるようにする。 ○ 料金情報とか地図等からきちんと根拠をあげて話をするように促す。 	<p>A, B 駐車場の写真と地図 数直線シート</p>
<p>第3時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 看板の表示の違いから制作者の意図や工夫をもとに、自分たちでも看板を制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① なぜ、こんなに料金が違うのか看板制作の意図について想起する。 ② 自分たちが駐車場の看板を作としたらどのように表現するか話し合っ、作成する。 ・ 昼と夜と、どちらの駐車率をあげるとよいと考えるか ・ 1時間あたりの料金設定をどうするか ・ 料金サービスをどう表現するか 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2時で見つけた意図を想起させる。 ○ きちんとした根拠を持って制作させる。ここでは、きれいに作ることを目指さなくてもよい。 	<p>看板シート</p>

4) 図表 4 3 小学校第 5 学年 算数科 山本朋弘先生 学習指導案(1)

ICT 社会における主体的・対話的で深い学びを実現する授業力育成セミナー

小学校第 5 学年算数科 学習指導案

日 時 平成 30 年 8 月 29 日 (水)

1 学年・教科
第 5 学年・算数科

2 単元名
「かたちであらうぼう」(東京書籍 上 P.103)

3 単元の目標

- ・ブロックを組み合わせて形を作る活動を通して、図形に親しみ、その楽しさを感じる。
- ・辺の長さ、角の大きさに着目して、いろいろなブロックの組み合わせを考え、説明している。

4 「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善の視点

○単元全体において

- ・算数の問題を解決する方法を理解するとともに、自ら問題を見いだし、解決するための構想を立て、実践し、その結果を評価・改善する機会を設けること。
- ・算数的活動(具体物・図・数・式・表・グラフを用いたり、操作したりしながら考え、説明する活動)を楽しめるような機会を設けること。
- ・友達と考えを伝え合うことで学び合ったり、学習の過程と成果を振り返り、よりよく問題解決できたことを実感したりする機会を設けること。

○本時において

本時では、「どうすればブロック(ア)～(ウ)を色々な図形にうまく敷き詰めることができるのだろうか」という学習課題に対してグループでの追究活動を行う。個人思考で「同じブロックを何枚敷き詰められるか」「なぜ、敷き詰められたり、敷き詰められなかったりするのか」を考える過程を取り入れることで、その後のグループによる対話的学びの充実を図る。また、グループ活動ではできるだけ多様な敷き詰め方を追究していく活動を行うことで、グループによる主体的な学びが展開されるようにする。全体での学び合いでは、グループで考えた敷き詰め方を説明したり、別のグループの考え方を聞くことで多様な考え方に触れさせ、議論を深めるようにするとともに、図形を考えていくことの楽しさを感じさせる。

5 コミュニケーションツールの活用

○本時では、個人思考の場面で図形を動かしながら思考錯誤できるように学習者用デジタル教材(タブレット端末)のコンテンツを使用する。個人思考の時間を十分確保し、個人の考え(主張と根拠)をしっかり持たせることで、グループや全体での議論がより深まるようにしたい。

○グループでの議論の場面では、大型ホワイトボードを用意する。大型ホワイトボードを活用することで、チーム全員で関わり合うことができ、よりアクティブに話し合い活動ができるようにする。

○チームでまとめた大型ホワイトボードをタブレット端末で撮影し、他のチームに説明するためのプレゼンテーション(授業支援ソフトの活用)を作成する。また、プレゼンテーションを電子黒板に転送し、チームで考えたことを全体で発表し、議論する。

図表 4 4 小学校第 5 学年 算数科 学習指導案(2)

ICT 社会における主体的・対話的で深い学びを実現する授業力育成セミナー

6 本時の展開 (1/1 時間)

本時の目標

ブロックを組み合わせせて形を作る活動を通して、図形に親しみ、その楽しさを味わう。

(1) 導入

- ① 問題を提示し、児童の発言をもとに本時のめあて (学習課題) に迫るようにする。

めあて (学習課題)

どうすればブロック (ア) ~ (ウ) を色々な図形にうまくしきつめることができるのだろうか。

ア



イ

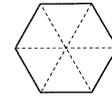


ウ

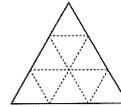


(2) 展開

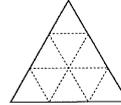
- ① 「ブロック (エ) には、それぞれ (ア) ~ (ウ) のブロックのいくつ分の大きさか」を考える。(個人思考)
- ・タブレット端末を操作しながら考えさせるようにする。(学習者用デジタル教材)
 - ・それぞれのブロックいくつ分で表せるかについて全体で確認する。



- ② 「図形 (正三角形) は、(イ) のブロックだけで作ることができるか、また (ウ) のブロックだけで作ることができるか」について考える。(個人思考)
- ・タブレット端末を操作しながら考えさせるようにする。(学習者用デジタル教材)
 - ・なぜ、ブロック (イ) やブロック (ウ) だけで作れたり、作れなかったりするのにかについても考えさせ、発表させる。



- ③ ブロック (ア) ~ (ウ) を組み合わせせて、図形を作る。(グループ活動)
- ・グループでタブレット端末を操作し、相談しながら、敷き詰めるブロックの組み合わせを考える。(学習者用デジタル教材)
 - ・グループでできるだけたくさん組み合わせを見つけさせるようにする。
 - ・敷き詰めたものは、画面保存する。



- ④ 全体で議論し、さらに学びを深める。
- ・それぞれのグループで画面保存されたものを電子黒板に転送する。
 - ・電子黒板に転送されたデータをもとに、グループで考えたことを説明する。全体で情報を共有することで、多様な考えに触れさせるようにする。

(3) まとめ

- ① 本時の学習をいかしながら授業のまとめを行う。
- ・図形の辺の長さ、角の大きさに着目することの大切さを確認する。
- ② 本時の学習を振り返る。
- ・「どのようなことを考えたのか?」「どうすればうまく敷き詰められるのか?」「ほかどんな敷き詰め方があるのか?」「他のグループの考え方はいかせそうか?」などの視点で書かせ、図形を考えることの面白さに気づかせるようにする。

本時の評価 (思考・判断・表現)

B基準 辺の長さや、角の大きさに着目して、いろいろなブロックの組み合わせを考え、説明することができる。

A基準 B基準に加え、うまく敷き詰めるための考え方について説明することができる。

5) 図表 4 5 中学校第 3 学年 理科 岩崎有朋先生 学習指導案(1)

ICT を活用した主体的・対話的で深い学びを実現する授業力育成セミナー
第 3 学年 理科学習指導案

日 時 平成 3 1 年 2 月 1 6 日 (土)
授業者 岩崎 有朋

1. 単元名 太陽と恒星の動き
2. 単元目標 太陽や星の規則的な動きは地球の自転によって起こることが理解できる。
3. 本時目標 観測地の違いによる星座の見え方について、モデルを利用して判断の根拠を示すことができる。
4. 評価規準 モデルを使いながら星座の見える方角、その星座の向きなどの証拠を求めようとしている。
5. 準備物 タブレット端末 (グループ 1 台)、電子黒板、地球儀、観測者モデル
6. 指導過程 (8 / 8)

学習内容	教師の支援・指導上の留意点	評価の視点
<p>1. 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>元旦の 2 2 時、東京ではオリオン座が南の方角に見えた。同時刻のシドニーではオリオン座はどの方角に見えるか。また、その時にオリオン座はどのように見えるか。それぞれ根拠を添えて説明せよ。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を告げる。 ・課題を考える上で必要な基礎的内容を全体で確認する。 ・電子黒板を使い、基本的内容の認識がずれないようにする。 	<p>○シドニーでのオリオン座の見え方、方角などを根拠となる映像を示しながら説明している</p>
<p>2. 地球、オリオン座の位置関係を確認したのち、東京とシドニーの位置にそれぞれ観測者モデルを重ね、証拠となる映像を撮影する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・映像は静止画とし、必要な補助線などは、アプリを使って加筆するように伝える。 ・グループ全員が理解できるように、撮影や映像への書き足しなどを行っている時に相互に説明し合うように指示をする。 ・グループの誰が説明担当になっても良いように説明の練習を行わせる。 	
<p>3. ワールドカフェ方式で、それぞれのグループ代表が説明し、他のメンバーは他のグループの説明を聞きに行く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの代表者を決める。 ・多様な考え方や表現の方法があることを知る機会とする。 	
<p>4. 説明に納得できたグループの説明を全体で聞き、改めて理解を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者からどのグループが良かったのか聞き、そのグループが全体の前で説明するように指示をする。 ・聞き手に、どの部分が特に納得できたのかを尋ねる。 <p>(※時間を見て追加課題)</p>	

図表 4 6 中学校第 3 学年 理科 学習指導案(2)

「星座の見え方を探れ」学習ループリック

評価規準	発展 (A)	標準 (B)	自己評価
①課題の条件のとき、日本での星座の見え方が分かっている。	観測者モデルを地球儀に合わせてながら、星座の見える方角と大まかな角度まで説明できる。	観測者モデルを地球儀に合わせてながら、見える方角を説明できる。	
②日周運動による天体の見かけの運動について理解している。	観測者モデルを使って、北半球と南半球での日周運動の天体の動きの違いを説明できる。	観測者モデルを使って、北半球での天体の動きを説明できる。	
③説明の根拠となる映像をグループで協力して撮影している。	撮影された写真を見て、具体的な改善点等を含めた自分の考えを伝えている。	撮影された写真を見て、自分の感想や考えを伝えている。	

5. セミナー内容普及促進用パンフレット制作

セミナーへ多数参加いただくために、開催案内のリーフレットだけではなく、セミナー内容を紹介したパンフレットを2000部制作した。

また、開催県での配付のため、10000部さらに増刷した。

内容は、セミナー内容の概要、ポイント、プログラム構成、模擬授業例、そして参加者の声を掲載し、参加意欲を促すものとした。

また、集客の目的だけでなく、開催地域の学校へセミナー内容を普及促進する目的もあわせて、8ページ構成のパンフレットを制作した。

開催2ヶ月前に、開催案内リーフレットとセミナー内容普及促進用パンフレットを県内の小学校・中学校・高校に郵送した。

以下が制作したパンフレットである。

1) 表紙及びセミナー概要(1ページ目)

図表47

**ICTを活用した
主体的・対話的で
深い学びを実現する
授業力育成事業**

～ セミナー編 ～

主体的・対話的で深い学びの過程を実現するためには、コミュニケーション場面において、さまざまな重要なポイントが存在する。

例えば、話し合いの目的。何を明らかにし、どういうゴールなのか。または、話し合いの視点。どうすれば話し合いが深まるのか。さらに、話し合いの共有の方法。教師はどのように整理をして、収束するのか。

本事業は、コミュニケーションツールの活用を視野に入れてこのような授業のあり方を検討し、情報を提供することを目的としている。

そこで、各地域で実践イメージが持てる模擬授業と考え方を理解できる講演やパネルディスカッションを含めたセミナーを実施し、その地域での普及をはかっている。同時に、本事業でコミュニケーションツールとして中心題材と定めている

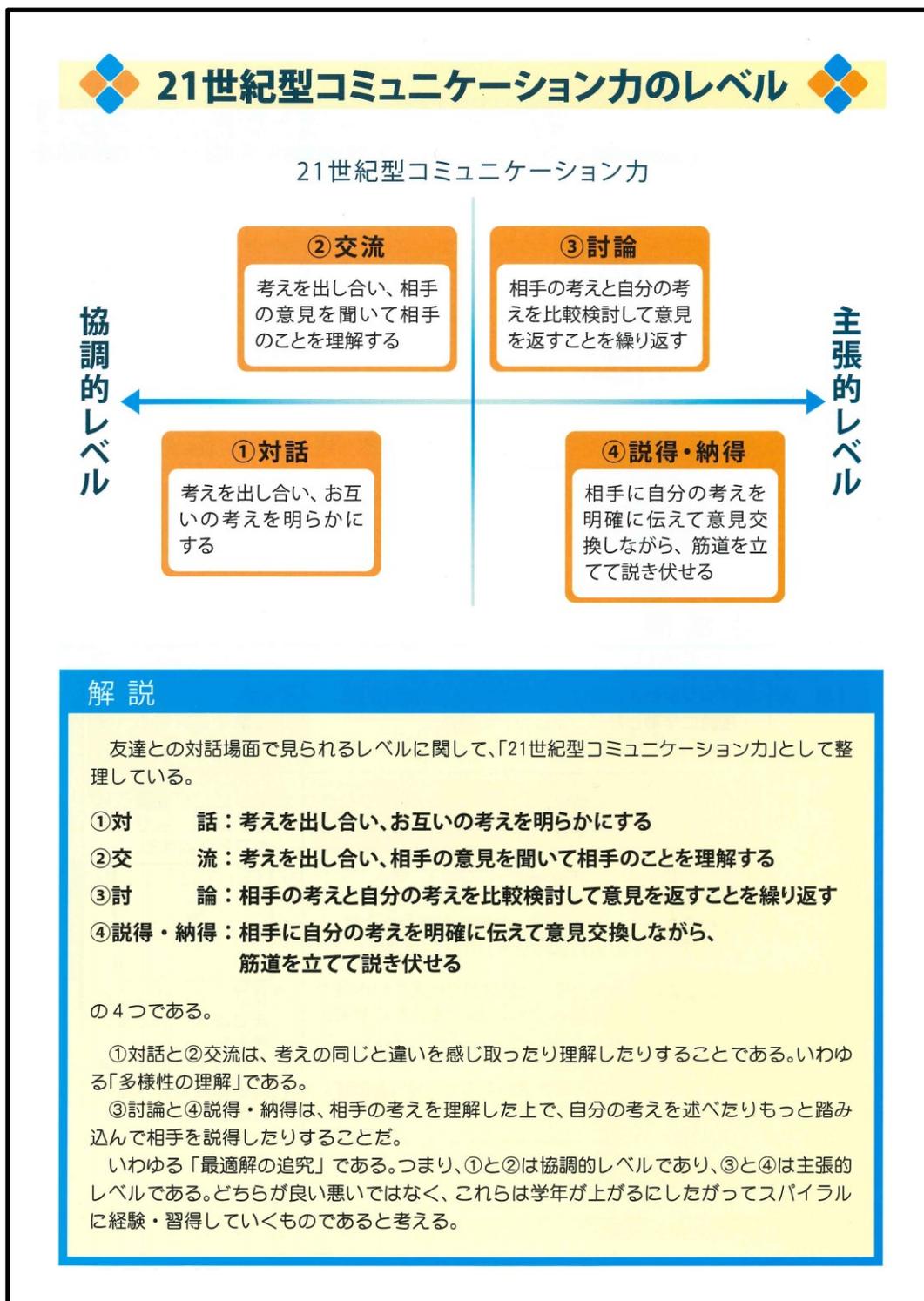
タブレット端末 ホワイトボード マッピングに関する教材パッケージ

を提供している。特に、タブレット端末については、今後全国でさらなる導入が予想されるものである。

JAPET & CEC 一般社団法人日本教育情報化振興会

競輪の補助事業 本セミナーは、競輪の補助により実施しています。
<http://hojo.keirin-autorace.or.jp>

図表 4 8



図表 4 9

**児童・生徒の立場で学ぶ
模擬授業例**

「町のよさを伝えるパンフレット」

1 概要

本教材は、「町のよさを伝えるためのパンフレットを作る」という言語活動を通して、相手に伝わるように情報を取捨選択し、文章を練りあげながら、パンフレットを作成することをねらいとする。本時では、町のよさを出し合う活動で「マッピング」を使い、また、テーマを的確に表す「キャッチコピー」を考える活動では、納得解を創造し、読む人を引きつける言葉へと高められるような学びを期待している。

2 本時目標

マッピングをもとに、伝えたいことについてのイメージを広げ、キャッチコピーを作ることができる。

3 本時の準備物

- タブレット端末(グループ1台)
- ホワイトボード(グループ1枚)

4 本時展開

導入	①パンフレットの構成や工夫点について確認する。 ・前時に学習したパンフレットの特徴 ・「自然」「食」「名所」「行事」等のテーマと役割の確認	○前時に利用した鹿児島に関する実物のパンフレットを提示する。
展開	<div style="background-color: #FFD700; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 学習課題 伝えたい鹿児島のよさについてマッピングでイメージを広げ、キャッチコピーを考えよう。 </div> ②テーマにした「鹿児島のよさ」について、個人でマップに書き出す。 →それぞれのマップを比較、内容を大まかに分類し、パンフレットに入れる内容をグループで決定する。 ③決定した内容をもとに、自分たちが伝えたい内容のキャッチコピーを個人で考える。→それぞれが考えたキャッチコピーを出し合い、グループとしてのキャッチコピーを決定する。 ・なぜ、そのような言葉を選んだのか、根拠を明確にして話す	○マッピングを電子黒板で提示しながら書き方を確認する。 <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">  </div> ○タブレットにはこれまで収集した地域の情報を入れておく。 ○キャッチコピーを考える際には、言葉を吟味させる。
まとめ	学習をまとめ、次時の課題を持つ ・「本時で学んだこと」や「考えたこと」	

4) 小学校模擬授業例 2(4 ページ目)

図表 5 0

ットを作ろう」
小学校 第6学年 国語

5 「主体的・対話的で深い学び」の実現へのポイント



(授業者：横地先生)：タブレット端末にはテーマに関連する写真等が収集してあるので、それを示しながら「なぜ、これをパンフレットに入れたいのかを話し合うようにしました。

(コメンター：佐藤先生)：ここでは、発言力のある児童だけではなく、全員に話をさせるのが大事ですね。そのためには、自分の考えを熟成させる時間を十分にとりましょう。

(授業者：横地先生)：それぞれのキャッチコピーをホワイトボードに集約しました。なぜ、その言葉を選んだのかを自分のマップをもとに説明します。



(コメンター：佐藤先生)：この模擬授業は大人対象でしたので、テーマの決定とキャッチコピーを決める活動とを両方やりましたが、授業では1時間ずつ設定しましょう。



(授業者：横地先生)：同じテーマにしたグループのキャッチコピーを比較しました。表現の違いや表現のよさ、それぞれの思いについて伝え合い次時への意欲付けにしました。

(コメンター：佐藤先生)：どのグループがよいという話ではなく、それぞれの思いを感じ合う活動にしたいですね。ただし、言葉の選択に関しては「より惹きつける」ということをもう一度本物のパンフレットに立ち返って考えさせたいですね。

6 全体を振り返って ～コメンターからのアドバイス～

パンフレット制作に見られる学び

- 相手の事を考えて言葉を選択(厳選)する力
- 目的に合った画像の大きさや「アップとルーズ」の画像の選択する力
- 文章力や紙面構成力
- 互いに見合っ、よりよいものへと作り替える価値観の共有

ICT の特性を生かした活用を!

パンフレット制作では、様々な学びが想定できる。児童の実態をもとに、どこに重点を置くのか、ICT を有効に活用できる場面はどこか等検討を要する。

パンフレット制作で陥りやすい授業からの脱却



- 相手意識・目的意識の明確化
- ホンモノから学ぶ時間の確保(キャッチコピー等を比較)
- 個人≠協働の授業のしかけ
- 振り返り

単にパンフレットを作るだけの活動になっている授業を見かける。「深い学び」をめざす授業では、上記の点を大事にしたい。

74

図表 5 1

児童・生徒の立場で学ぶ
模擬授業例

「地球と宇宙」

1 概要

本教材は、金星の運動と見え方について、地球、太陽、金星の位置を空間的に捉え、公転運動に伴って変化する位置関係と関連付けながら地球から見た金星の形や大きさを考えるものである。本時では、地球、太陽、金星のモデル実験を通して、地球の観察者からの視点と天体の位置関係全体を俯瞰する視点と切り替えながら、担当の月日についての金星の見え方を明らかにする。そして、他のグループと考えを交流しながら、金星の満ち欠けについて理解を深める学習である。

2 本時目標

- ・地球、太陽、金星のモデルを使って、金星の観測可能な時間帯を求められることができる。
- ・役割を分担し、学級全体で課題解決に向けて協動的に振る舞うことができる。

3 本時の準備物

- タブレット端末(グループ2台)
- ホワイトボード(グループ1枚)
- 地球と金星の小型模型

4 本時展開

導入	<p>①課題解決に向けて、これまでの学習内容を想起し、本時の課題を解決するための見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転と公転とは ・「夕方に見える」ということは どういう状況か 	<p>○生徒に渡す資料には1～6月のうち、2ヶ月分しか印刷されていない。他のグループからデータを提供してもらう必要があることを伝える。</p>
展開	<p>学習課題 1～6月の各15日に観測した時、夕方に見える金星はあるだろうか。</p> <p>②地球と金星のモデルを使って、夕方に観察可能かをグループで検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月分の資料を作る ・誰もが納得する映像資料を集める <p>③根拠となる映像を示しながら、他のグループと説明し合い、結論を導く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転、公転、地平線、見える位置など、学習した用語を使って説明 	<p>○撮影ごとに役割を必ず交代する。</p> <p>○タブレットの映像の中から、説明に必要なものを選択する。</p> <p>○誰もが他のグループに説明できるように、事前に話す内容を精査しておく。</p>
まとめ	<p>画像データを使って、クラス全体で再確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの結論の確認 	<p>○全グループのデータを電子黒板に転送する。</p>

図表 5 2

中学校 第3学年 理科

5 「主体的・対話的で深い学び」の実現へのポイント



(授業者：岩崎先生)：地球と金星の模型を使って、それぞれどのように動くのか、どの位置から金星を観測するか等、これまでの学習を想起しながら話し合い、見える位置を決定することが大事です。

(コメンター：秋元先生)：授業で行う場合は、ここでは全員が考えを出せるように、事前に個人で考える時間を設定することが必要です。その上で、考えを出し合うことで、より「深い」学びにつながっていくことでしょう。

(授業者：岩崎先生)：他のグループに自分たちの結果を理解してもらうため、映像を指し示したり拡大したりして説明していました。

(コメンター：秋元先生)：「グループの誰もが説明できるように、グループ内でストーリーを決めておく」という手だては、この問題解決に臨む一人一人に責任を持たせ意欲をわかせているのですね。



(授業者：岩崎先生)：グループの結果を一覧して、自分のグループの結果と他のグループの結果を可視化しました。結果が違う場合は、どこに原因があるかを追究していきます。

(コメンター：秋元先生)：違いが出てきた場合は、さらに深く「正解」に向かって討論していくことになります。ただ、どのグループも正しい解に辿り着いた場合は、では「他の月には」といった本時での学びを発展させるような問いを用意しておくことが必要でしょう。



6 全体を振り返って ～コメンターからのアドバイス～

対話的な学びを深めるためのルール

ルール1
教室内のヒト・モノは全て使う

ルール2
誰でも答えられる準備をする

ルール3
クラス全員でかしくなる

一部の子もだけが活躍するのではなく、クラス全員が思考し表現する場面を必ず作っていることで、一人一人の力が向上し、しいてはクラス全体の力が向上していきます。

日常活動で“対話力”を鍛える

- ・朝の会や帰りの会での輪番制スピーチ
- ・意図的な指名：一授業で全員発表＆指名の工夫
- ・ペアトーク・グループトークの場面を作る
- ・話し方など「学習スキル(型)」を身に付けさせる
- ・「話し合いの好モデルを紹介、評価とそのくりかえし」で話し合いのイメージを持たせる

“対話力”を鍛えるためには、普段の生活の中で地道に基礎を積み上げ、計画的に対話する力をつけさせることが大切です。

7) パネルディスカッションの概要(7 ページ目)

図表 5 3

セミナーを振り返る
総括パネル

パネルディスカッションの概要



参加者の声

- コミュニケーション能力の育成を ICT を利用してうまく実践している授業やその考え方となる講演をお聞きし、非常に大きな学びを得ることができました。(新潟参加者)
- ICT 教育は、コンピュータに詳しい先生しかできないイメージが少し崩れました。自分ができる ICT を使った授業を積極的にしていきたいと思います。(鹿児島参加者)
- ご講演・授業体験・パネルという構成により、考えが深まりました。(仙台参加者)



中川先生

本パネルでは、「主体的・対話的で深い学びとコミュニケーションツールの活用」に関して、模擬授業や2つのツールに焦点化して議論を深めていきます。主体的・対話的で深い学びとコミュニケーションツール活用授業の肝については、以下のような視点で検討していきます。

①どんな課題であるのか

③「教師の出」は適切か

⑤ツールが児童生徒に「馴染む」には

②論点は何か

④ツールは有効に働いているか



山本先生



一般社団法人日本教育情報化振興会

タブレット端末活用は、タブレット端末の携帯性や操作性、多様性の3つの特長を活かしていくことが重要です。タブレット端末は、コミュニケーション力育成の学習ツールとしても効果的な活用が期待できます。



佐藤先生

学習課題：
天下統一の立役者は誰か。その理由をみんなに伝えよう。

全員参加の楽しい学習活動
学習者主体
合意形成のための話し合い

学習者に
委ねられた課題

コミュニケーション
ツールの活用

相互作用

どのような授業が行われたのか、コミュニケーションツールは学びに寄与したのか、それは教科の学習のねらいにどのように迫るものであったか等、その日の模擬授業をもとに整理して話すように心がけています。

8) 過去開催／関連書籍／委員一覧(8 ページ目)

図表 5 4

開催地		
2015年度	1. 博多市	2017年度
2016年度	1. 金沢市 2. 大阪市 3. 東京都 4. 博多市 5. 仙台市	1. 新潟市 2. 宇都宮市 3. 大阪市 4. 鹿児島市 5. 和歌山市 6. 那覇市 7. 東京都
		2018年度(予定)
		1. 大阪市 2. 徳之島町 3. 札幌市 4. 川崎市 5. 金沢市 6. 広島市 7. 東京都

関連書籍	
 <p>続・コミュニケーション力指導の手引</p>	<p>「続・コミュニケーション力指導の手引き」</p> <p>小学校学習指導要領に対応させながら言語活動と情報活用能力をキーワードに、コミュニケーション力を「主体的に情報にアクセスし、収集した情報から課題解決に必要な情報を取り出し、自分の考えや意見を付け加えながらまとめ、メディアを適切に活用して伝え合うことにより深めていくことができる能力」と定義し、これをスキルの視点で捉えると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人やメディアにアクセスするスキル ・複数の情報から必要な情報を取り出し新たに情報を生成するスキル ・メディアを活用しながら表現・交流し合うスキル <p>になります。 これを育成する学習活動のための手引書を全学年を視野に各教科横断的にまとめたものです。</p>
 <p>タブレット端末を活用した21世紀型コミュニケーション力の育成</p>	<p>「タブレット端末を活用した21世紀型コミュニケーション力の育成」</p> <p>タブレット端末を持つ 「撮る」「見る」「書き込む」「大きくする」「見せる」「転送する」「保存する」などの活用シーンを組み合わせながら、これらを子どものコミュニケーション場面でどのように活用できるか、授業で、学校で、地域で、どのようにコミュニケーション力を育成していくのかについて、事例をふまえ、整理したものです。</p> <p>詳細は、http://www.japet.or.jp/Case/21comm/</p>

委員一覧			
委員長	放送大学	教授	中川 一史
副委員長	金沢星稜大学	教授	佐藤 幸江
//	鹿児島大学大学院	准教授	山本 朋弘
委員	千葉県総合教育センター	所長	秋元 大輔
//	茨城大学	准教授	小林 祐紀
//	仙台市立六郷小学校	校長	菅原 弘一
//	柏市立手賀東小学校	校長	佐和 伸明
//	岩美町立岩美中学校	教諭	岩崎 有朋
//	佐賀市教育委員会	指導主事	横地 千恵子
//	金沢市立大徳小学校	教諭	山口 真希
//	八代市立八代小学校	教諭	樋口 勇輝

発行 一般社団法人日本教育情報化振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル TEL 03-5575-5365

6. 成果発表会

当事業の活動内容を広く広報するために、平成30年度日本教育情報化振興会 教育の情報化推進フォーラムにおいて、

1) 分科会A1 パネルディスカッション

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業におけるコミュニケーションツールの活用（解説編）～タブレット端末、ホワイトボード、マッピング、グルーピングをもとに～」

2) 分科会A2 ワークショップ(模擬授業)

「ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを実現する授業力の育成」

と題し、開催した。

分科会の概要は以下の通りである。

- ・開催日時 平成31年3月7日 分科会A1 14時15分～15時15分
分科会A2 15時45分～17時15分

・国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟

・来場者数 参加者 A1：323名 A2：212名

〈主旨説明・パネル討論〉 分科会A1

コーディネータ	：	放送大学	教授	中川	一史
パネリスト	：	金沢星稷大学	教授	佐藤	幸江
		茨城大学	准教授	小林	祐紀

〈模擬授業・ワークショップ〉 分科会A2

コーディネータ	：	千葉県総合教育センター	所長	秋元	大輔
コメンテータ	：	柏市立手賀東小学校	校長	佐和	伸明
授業者	：	金沢市立大徳小学校	教諭	山口	眞希

図表55 成果発表会の様子 分科会A2（趣旨説明・パネル討論）



図表 5 6 成果発表会の様子 分科会 A 2（模擬授業・ワークショップ）



6. まとめ

今年度は、「ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを実現する授業力育成」をテーマに事業をすすめた。

開催したセミナーのプログラムは、基調講演のテーマをプログラミング教育としたものに変えたり、模擬授業のカリキュラムも一新した。

さらに、教育委員会とのタイアップによる開催形態やまだセミナーを開催していない地域の選択をし、7地域（大阪、徳之島、神奈川、金沢、広島、東京）でセミナーを開催した。

一方的なセミナー形式ではなく、参加した先生が授業を行う際に参考になるような実践的な内容を中心とし、参加者からは「ツールの使い方ではなく、どのような考えでツールを使うかというもので、とても参考になった。今後の実践に「どう表現させるか」を意識して活かしていきたい。」「小、中学の先生方がかかえる問題を共有できた部分が有り、また、プログラミング教育への理解もでき、有意義な時間でした。」というご意見をいただき、とても好評であった。

来年度は、文部科学省が新学習指導要領の中であげている2020年からの新学習指導要領全面実施に向け、文部科学省が新学習指導要領の中であげている「教科横断的な情報活用能力の育成」を目的に、事業を行っていきたく考えている。

新学習指導要領の情報教育・ICT活用教育関係のポイントとして、情報活用能力を言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けており、当事業が今まで取り組んできたコミュニケーション力育成が、まさに言語能力の育成であり、さらにICTを活用した情報活用能力育成へとつながっている。

「情報活用能力育成」のために調査研究を充実していき、子どもたちの情報活用能力を育成するための、教師の授業力を育成することとしたい。

以上

—

教育現場のICT安全安心対策事業 実施報告書

発行・著作 一般社団法人日本教育情報化振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル8階

TEL 03-5575-5365

FAX 03-5575-5366

<https://www.japet.or.jp/>

禁無断転載

JAPET
& CEC